平成25年 第2回 対馬市議会定例会会議録(第3日)

平成25年6月26日(水曜日)

議事日程(第3号)

平成25年6月26日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(21名)

1番 春田 新一君	2番 小島 徳重君
3番 入江 有紀君	4番 船越 洋一君
5番 渕上 清君	6番 脇本 啓喜君
7番 黒田 昭雄君	8番 小田 昭人君
9番 長 信義君	10番 波田 政和君
11番 上野洋次郎君	12番 齋藤 久光君
13番 堀江 政武君	14番 小宮 教義君
15番 初村 久藏君	16番 大浦 孝司君
17番 小川 廣康君	18番 大部 初幸君
19番 兵頭 栄君	20番 山本 輝昭君
21番 作元 義文君	

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長	神宮 満也君	次長	松本 政美君
課長補佐	國分 幸和君	主任	金丸 隆博君

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部 能成君
副市長	高屋 雅生君
教育長	梅野 正博君
地域再生推進本部長	平間 壽郎君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務部長	桐谷 雅宣君
政策監	平山 秀樹君
総務課長	根々 英夫君
市民生活部長	藤田 雄二君
福祉保健部長	多田 満國君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	堀 義喜君
水道局長	阿比留 誠君
教育部長	豊田 充君
美津島地域活性化センター部長	八坂 一義君
豊玉地域活性化センター部長	梅野 泉君
峰地域活性化センター部長	志田 博俊君
上県地域活性化センター部長	川本 治源君
上対馬地域活性化センター部長	島居 清晴君
消防長	竹中 英文君
会計管理者	長久 敏一君
監査委員事務局長	糸瀬 美也君
農業委員会事務局長	春日亀剛一君
選挙管理委員会委員長	円城 雄司君

午前10時00分開議

○議長（作元 義文君） おはようございます。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） 皆さん、おはようございます。市民つしまの小島徳重でございます。

一般の市議会議員一般選挙におきまして、多数の有権者の皆様方から望外の信任をいただき、議会に送っていただきましたことに心から感謝申し上げ、この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

市議会の場に身を置き、その責務の重さに身の引き締まる思いです。市民の皆様方の負託に応えるべく、自己研さんに励み、議会人としての職責を果たしていく所存です。

作元議長はじめ、先輩議員の皆様方には温かい御指導をお願い申し上げますとともに、市長をはじめ、執行機関の皆様にも、御支援のほどよろしくお願ひします。

初めて一般質問の場に立たせていただきまして、ちょうど新米教師のころに先輩方がたくさん見守る中で研究授業をしたときのことを今、思い出しております。

質問させていただきますけども、不慣れでございますので、十分質問の趣旨が通らないこと等があるかと思いますが、その折には、どうぞ御答弁される方々、よろしくお願ひをいたします。

それでは、通告にしたがい4点お尋ねいたします。

1点目は、去る5月19日に執行された、市議会議員一般選挙に係る投票率の低下傾向についてです。

御承知のように、投票率は80.51%であり、前回平成21年5月の一般選挙に比べ6.67ポイント、前々回に比べ9.45ポイント低くなっています。投票率の低下現象は、市長選挙においても同様の傾向が見られます。

投票率は、有権者の政治への関心度を示すバロメーターであると言えます。選挙期間中、有権者の皆様の反応から投票率が下がるのではないかという感じはしておりましたけども、こんなに落ち込むとは、私は思っていませんでした。

地方自治は民主主義の学校であるとも言われます。最も身近である市議会議員選挙において、8年間で10ポイント近く投票率が低下している現実をどのように受け止めるべきでしょうか。このような低下傾向が続けば、市政への関心が薄らぎ、有権者の政治離れが加速度を増すのではないかと危惧するものです。

市長は、このような投票率の低下傾向をどのように受け止めていらっしゃるか、御所見をお伺いいたします。

また、選挙管理委員会には、有権者の市政への関心を高め、投票率を上げるためにどのような方策を考えておられるか、お伺いいたします。

次、2点目に、地域マネージャー制度の進捗状況等についてお尋ねをいたします。

地域マネージャー制度は、市長が掲げておられる市民協働のまちづくりの中核に位置付けられていますが、制度設定以来6年目を迎えての進捗状況をどのように評価されているか、御所見をお伺いいたします。

制度が円滑に運用され、結果として地域の活性化がなされている地区と、制度があまり活用されてない地区との地域格差が生じているのではないのでしょうか。

平成24年2月に実施された区長さん方へのアンケート調査によると、地域マネージャー制度が活用されていますかという問いについて、181行政区のうち、回答のあった130地区の中で50地区があまり活用されてない、25地区が全く活用されてない、併せて75地区57.69%の地区で活動が停滞しているか、活動されてないという実態が浮かび上がっています。

また、職員へのアンケート調査によると、地域マネージャー制度は地域への支援や市民協働のまちづくりに向けて効果があると思いますかという問いに、効果を認めている職員は約3分の1程度、効果を認めていない職員が約5分の1程度います。活動が遅れている地域、活動がなされてない地区は、このままでは活力のない地域のまま終わってしまうのではないかと心配されます。いわゆる、後発地域という言葉で呼んでいいかどうか分かりませんが、後発地域への支援、てこ入れが必要ではないのでしょうか。

現在、どのような方策が講じられているか、これからどのような方策を立てていくのか、お伺いをいたします。

新規担当マネージャーの研修資料によると、地域マネージャー制度の源流は、昭和期の社会教育、生涯学習時代に築いた自治公民館制度による集落単位の地域コミュニティであると記載をしております。まさにそのとおりであると考えます。そうであれば、対馬市が進める市民協働のまちづくりにおいても、社会教育、公民館活動がもっと大きな役割を果たすべきではないでしょうか。市長の御見解を伺います。

3点目として、生涯学習、社会教育の振興について、教育委員会にお尋ねいたします。

対馬市教育委員会におかれましては、教育基本法第3条の生涯学習の理念や12条の社会教育の重要性を説いた法の趣旨に基づき、総合的な社会教育の一層の振興に向け、鋭意努力を重ねていただけることに敬意を表し、関係者の御尽力に感謝申し上げます。

しかしながら、対馬市発足後、生涯学習課関係組織の縮減が続いています。人的配置は平成16年度、52名配置されていた職員が、平成25年度は20名にまで減っています。行財政改革大綱により、有効的な組織機構が求められていることは承知していますが、市全体の職員数の縮減割合に比べ、生涯学習課関係の縮減の割合はあまりにも大きすぎるのではないのでしょうか。美津島地区、峰地区、上県地区の生涯学習センターと公民館は兼ねてるわけですが、この

専任職員は現在1名のみとなっています。生涯学習の拠点としての地区生涯学習センター、公民館組織の現在の職員配置で生涯学習課の重点施策に挙げられている対馬ならではの地域性を生かした各種施策の推進、地域コミュニティの形成は十分にできるのでしょうか。

また、対馬市が推進している市民協働のまちづくりにおいて、現在の体制で社会教育の役割を果たすことはできるのでしょうか。教育委員会の所見を伺います。

4点目に、雞知保育所への入所希望者の待機についてお尋ねいたします。

平成25年6月現在の保育所在籍児童数によると、公立認可保育所、へき地保育所、私立保育所を含めて1,250名の定員に対して940名の在籍児童数であり、対馬市次世代育成支援対策行動計画においても通常保育は保育ニーズに十分対応できる旨、記載されております。

しかしながら、雞知保育所においては、6月現在定員120名に対し136名が入所し、待機児童もいると聞き及んでいます。安心して子育てができるまち、子育てと仕事と一緒にできるまち、と次世代育成支援対策行動計画にはうたっていますが、雞知地区においてはニーズに応じた保育が実現していないのではないのでしょうか。雞知地区の待機児童の現況と解消の方策について、中長期的な展望も含めて伺いをいたします。

以上、4点について、市長並びに関係委員会の御答弁をお願いいたします。答弁の内容によりましては、1問1答によりお願いをいたします。

○議長（作元 義文君） 選挙管理委員会委員長、円城雄司君。

○選挙管理委員会委員長（円城 雄司君） 対馬市選挙管理委員会の委員長、円城でございます。よろしく申し上げます。

私からは、投票率向上の方策について述べさせていただきます。

はじめに、5月19日に行われました、対馬市議会議員一般選挙におきまして、市民の皆様、職員各位の御協力のもと、滞りなく無事に選挙を終えましたことに対し、感謝を申し上げます。

投票率は80.51%となり、県内13市の市議会議員選挙と比較し、上位から5番目ですが、前回、平成21年の87.18%に比べ6.77ポイント下がりました。投票率の低下について、棄権の理由を推測する資料として、総務省が公表している「目で見える投票率24年3月版」という選挙関連資料がございます。これによりますと、棄権理由の主なもの仕事、用事があったから51.1%、適当な候補者、政党がなかったが18.4%、選挙に関心がない14.9%であり、全国の自治体ではこれらの要因の解消を図り、投票率の向上に向けて期日前投票の拡充や選挙公報の取り組みが行われているところでございます。

対馬市選挙管理委員会の取り組みではありますが、まず広報活動として、市報による事前の告知やケーブルテレビ、ホームページでの告知、さらに投票当日の防災無線による告知、啓発用懸垂幕及び横断幕の設置を行っております。また、期日前投票所の6カ所の設置に加え、期日前電算

システムの導入より、全市域の有権者がどの期日前投票所でも投票することを可能にするなど、投票環境の向上に努めているところでございます。

常時啓発として、成人式で新有権者向け選挙の手引きの配布、学校では、希望により投票箱の貸与、選挙啓発ポスターの募集を行っております。

投票の利便性は向上しておりますが、それに反するように、どの市町も町村合併後に市議選挙の投票率が下がる傾向にあります。これは、都市部と同様に、若者を中心とした選挙に関心のない人々の増加や、有権者の、自分の1票で選挙結果は変わらないという心理が投票行動の低下を招いているのではないかと考えられます。

以上のことから、投票率を上げるためには、市民に対する政治や選挙に対する意識の向上に取り組む必要があります。県内でも、20代の若者に対する模擬選挙や、フェイスブックを活用した啓発を実施している自治体もあります。こうした例をはじめ、他自治体の先進的な事例なども参考にしながら、投票率向上を目指す取り組みを行ってまいりたいと考えております。

最後に、公職選挙法の改正に伴い、インターネット選挙運動が参議院議員通常選挙から解禁されたことについて申し添えます。

今回の市議選挙、市長選からは選挙運動にホームページ、ブログ、掲示板、フェイスブック、動画共有サービスなどができるようになり、印刷物以外の方法で候補者の政見が広く有権者に周知できるようになりました。これにより、候補者と若年層の有権者の距離が縮まるものと期待しております。新しい制度が投票率向上の一助になるものと期待しているところであります。

以上です。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小島議員の御質問にお答えさせていただきます。

先ほど御質問の中で、政治への関心度合いの表れだろうというお話がございました。まさに、その辺りが大きな要因になってるのではないかというふうに感じてなりません。先ほどおっしゃいました、率低落傾向っていうのは、これはもう事実でございます。

先ほど選管委員長のほうからもありましたように、やはりそれは全国的な傾向だというふうにも思いますけれども、しかし、この無関心層をどんどんつくっていつているのかもしれない。それは、私たち市政に携わる者のその取り組みとか姿勢というもの、これが有権者のほうに十分に伝わっていないのではないかと。そして合わせて理解をしていただけないということにもなってしまふ。それが政治そのものへの不信感とか失望感、もしくは閉塞感とかそういうものをどんどん増幅させているのではないかというふうに思います。私どもは、やはりこの無関心層をどうかして減少させていくことを目途に、やはり常に市政運営というものを考えていかななくてはならないのではないかと。どうか御協力、御支援をいただきたいという

ふうに思います。

それと、2点目の地域マネージャーの進捗並びに成果とか今後の展開というお話がございました。それと合わせて、生涯学習のお話もございました。

実は、この地域マネージャーっていう制度、制度って、自分自身がずっと、どうすれば市政、市と市民とが近くなれるのかとか、市役所職員が地域のことを考えた行政運営っていうのをどのようにすれば育っていくとか、いろんなことを考えるきっかけとなりましたのは、実は以前よくあの全国的にも話になりました、生涯学習センターっていうのが各地域で芽生えていた時代があります。

恐らく、たしか東北だったと思いますが、金山町っていうところなんか先進的な、東北、福島だったか、山形だったかちょっと記憶が定かではありませんけども、そういうところの取り組みっていうのは何だったかっていいますと、要するに、市役所の機能っていうのが、生涯学習センターがもっぱら受け持っていくというふうなこと、要は地域にいかに近い所にいて物事を組み立てられるかということがそのときの目的だったというふうに、その本を読んだときに記憶しております。それから自分自身の中でどのようにすればよいかというふうなことをずっと思い描いた結果、今、地域マネージャーっていうものに自分自身は行き着いたところでありました。

おっしゃられますように、地域の反応、そして職員の浸透と言いますと、なかなか一朝一夕にはできるものではないということは事実でございます。しかし、どうかしてこの制度っていうものを根付かせていくことが市民生活、身近な所でのいろんな問題の解決をやっていくことが大切だと思えますし、高齢化社会をどんどん迎えていく中で、やはり地域の方々のポテンシャルというのがだんだんそがれていく部分があるかと思っております。そういう中、地域に対しての関わりというものをどうつくっていくかがこれからの市政、市役所職員の役割だと思っておりますので、思っております。

そういう中、愛知県の新城市とか、そういうところにおきましては、この志願職員、志願職員を対象に、名前は違いますけども、地域マネージャー制度を導入をしたところもありますし、地方自治法の202条でしたか、たしかそういう条文を利用しながら物事を動かしていくとか、いうことにも最近動き始めたようにあります。何度も言いますが、名古屋、大都市の名古屋等もこの制度を導入をしようとして、河村市長も奮闘されてるようでもあります。

恐らくこれからの時代には、適応できるものだと思っておりますし、そのためには、地域の方々のやはり御理解というものをいただいいていかななくてはいけない、そのときに今、今後の展開としまして、集落のほうからこの市民協働というものを推進をしていってもらう方を区長さんとはまた別に、選任をしていただくこうということで、今、組み立てを内部的にはこの春ぐらいから今してるところでございます。

その中で、また新たな、先ほどのおっしゃられた率がございますけども、その率をこう高めていく、そして地域の方もその地域マネージャーっていうのがいかにいいかとかいうことも感じていただきたいと思っております。

地域マネージャー制度の中で地域づくり計画というものを私どもはお願いをしております。やはり、地域の方向性というものをきちんと定める中で、物事を組み立てていってほしいという思いもありますし、間もなくしますと10年を対馬市も迎えますけども、次なる10年に向かって、総合計画とか仮称でございますけども、合併時の新市建設計画に代わるものをつくっていかないといけないというふうに思っております。そうなりますと、まさにその地域づくり計画というのが集まったときの計画の部分が次なる新市建設計画の形にもなっていくだろうと思っておりますので、地区ごとの今置かれている課題とかいうものを明確に出しながら、その解決策というものにも市民の方たちも一緒になって取り組んでいただきたいと思っておりますし、地域づくり計画につきましては、もうでき上がって提出されてる地区もございます。その地域づくり計画を受けて、私どももこの前回の予算等にも提案をさせて、表すということもさせていただいたところでございます。そういうふうな動きがあるということで御理解をいただければと思っておりますし、先ほど冒頭言いましたように、生涯、社会教育、公民館とかの生涯学習と地域マネージャーとの関わりということは、私自身はそういう考え方をもって今までも動いてきたつもりですけども、なかなかそれが今、先ほど御質問にありましたような部分できちんと表れない、ならば組織とは別に、それを動かしていくその制度として、ということも考えなくてはいけない時代が来たのかなというふうに思って聞いておりました。

それと、最後の保育所の、待機児童の問題でございますが、待機児童っていうのを国が言ってる待機児童と今僕と私と、今小島議員が言ってる待機児童という解釈が若干違うんですね。国の理屈と今僕らが使ってる待機児童の使い方が若干違うとは思いますが、少なくとも入所できない、第一義的にできなかった子供のことかなというふうに、今聞いておりました。

それにつきましては、確かに4月段階において難知保育所に約20名の子供たちが入所できなかったという報告が上がってきております。確かに、保護者の方の希望に一部沿うことができないというケースもございましたけども、その後に保護者の方たちと相談等を重ねて、近隣の公立保育所や、厳原市内の私立の保育所などに入所をしていただいているというふうに今は報告が上がってきております。

根本的な問題として、子供たちが入れない状況をどのように解消していこうかっていうのが御質問の趣旨だと思います。今、国のほうが待機児童ゼロっていうのを打ち出してはおられます。認可保育所、無認可保育所を含めてどのようにその形をつくっていけばいいのか。確かに認可保育所の定員を、定員だけを増やしても設置基準上の平米数っていうのが増えるわけではありま

せんし、ハードを一気に広げることも不可能だと思います。その辺りについての柔軟なやり方として、認可保育所と無認可保育所の考え方があそこにできたんだろうというふうに、ニュースを見て、聞いておりましたけども、これが方向性っていうのを、国の方向性等も十分に調査しながら、子供たちにとって、そして保護者にとって、よりよい保育所とか保育環境っていいですか、そういうものがつくれるようなことに努めていきたいというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 小島議員の御質問にお答えをさせていただきます。

所定の手続きを取らせていただいておりますので、私のほうから回答をさせていただきます。

社会教育の振興についてでございますが、社会教育を振興する上での対馬ならではの地域性を生かした施策の推進についてでございますが、議員の皆様も御承知のとおり、教育努力目標の1つに、「地域教育力資源の活用と生涯学習を通じた地域教育力の再生」を掲げ、主な推進事業として社会教育、社会体育、芸術文化、公民館、図書館の5分野を設け、さらに各分野で推進事業を設定し、生涯学習を推進するように努めております。

さまざまな事業を推進する上で課題となってくるのが、御質問のとおり、対馬ならではの授業、地域を生かした授業を教育委員会としてどう推進していくかということです。常日頃より思案をしているところでございます。地域の人材を活用した短期的または長期的な事業もあるでしょうし、対馬の地の利を活用した歴史的、国際交流的な授業等もあろうかと思っております。

いずれにいたしましても、市民の皆さん1人1人が対馬に魅力をもって生涯にわたりさまざまな学習が行えるよう、情報と活動の場を提供し、生きがいつくりに寄与できるような社会教育の推進に努めてまいりたいと考えております。

また、御質問の内容を今後事業を推進する上での課題としても捉えてまいりたいと思っております。

協働のまちづくりにおける社会教育の役割につきましては、市長答弁もございましたが、生涯学習課が推進しております事業並びに各種関係団体等とのネットワークの構築をさらに図りながら、協働のまちづくりの一助になりますよう、今後も検討してまいりたいと思っております。

続きまして、地区生涯学習センター、地区公民館の活動状況と課題についてでございます。

活動状況につきましては、御存じのとおり行革等で人員の削減が続く中、それぞれの地区生涯学習センターにおいて、公民館事業も含め主なものとしまして青少年教育事業、社会体育事業、公民館講座等の事業を推進しております。人員が少ないために隣り合う生涯学習センターの連携を密にしながら、工夫しながら進めている面もございます。

課題といたしまして、社会教育を推進する上で継続事業の評価を行ってのゼロベースでの見直しであったり、市民の皆様が社会教育に何を求めておられるのかを把握する必要もあろうかと思っております。

課題といたしましては、2つ考えております。社会教育をいかにして対馬の活性化につないでいくことができるか。2つ目は、1人でも多くの方々に参加をしていただくという、この2つを現在の課題として捉えております。

今後につきましても、関係各部署並びに関係団体等との連携を密にするとともに、社会教育委員、公民館運営審議会委員等の御意見をお伺いしながら、社会教育の振興に努めてまいりたいと考えておりますので、議員の皆様におかれましても、お力添えを賜りますよう、お願いをいたします。

○議長（作元 義文君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） それぞれの立場で丁寧な御答弁をいただきましてありがとうございました。

まず1点目の、市長さんからお答えいただきました投票率の低下についての政治的無関心という、このことについて、私も実は初めてことし、今回、市議選に挑戦させていただいて、地区を回らせていただく中で感じたんですね。市長さんがおっしゃったと同じようなことを感じました。言葉は、私が言ったんじゃないんですが、こういう言葉が私に返ってきましたね。「あんたたちは選挙のときだけやってくるが、後は顔を出ささん」と。それから、「いいことは言うけども実行がともなっていないんじゃないか」と。それから、「誰に入れても何も変わらんって、もう投票にゃ行かんよ」とかですね。これを聞いて、少し私もがっかりしながらだったんですけども、そういう中で、やはり私初めてだったもんですから、特にこう地元を離れますと、なかなか自分をわかってもらうことが難しかったですね。まず名前から。「あんた、何というとね」と、ここから始まるわけですね。それから、「何をしよったんね」「市会議員になって何をするとね」と。「市会議員が何ができるかね」というような言葉が返ってきました。こういう言葉を返してくださる方は、ある意味では関心を持ってあるのかもしれない。

だから、選管委員長さんもおっしゃったように、そういう、やはり実態、これは島の中、以前は市会議員、町会議員、市会議員ならば90%を超えて、町によって90%半ばの投票率があったと思うんですよ。これがやっぱり下がってきているということは、政治的無関心というか、地域コミュニティも含めて壊れてきてるんじゃないかなということを感じたから、最初に挙げさせていただいたわけです。

私、やはりだからそういう中で、選管委員長さんが答えてくださった中では、確かに次回からはネット選挙も出ますですね。できます。やはり対馬の現状からしますと、高齢者が多い、私も含めてやはりそれになかなか馴染めないだろうと思います。そういう中では、やはり全国的な動向も委員長さん述べてくださりしましたが、ぜひそれも探っていただく、そしてやはり対馬にはケーブルテレビという有効な手段があるわけですね。やはりこれを候補者を知ってもらうために

は、動画で流すこと、あるいは静止画面でもいいから、新聞報道されてるくらいの簡単な経歴と主な狙いぐらいは出してもらえたらすごく多くの方が関心持ってもらえるんじゃないかなということを感じました。

それから、選挙公報、これ私も公職選挙法よくわかりませんので、これを市段階で出せるのかどうかわかりませんが、これもやはり紙媒体で候補者の経歴なり訴えなりを1週間の間に出すのは難しいかわかりませんが、工夫してやっていただければ、政治への関心を高めていただく機会になるんじゃないかということで、これは答弁はいりませんから、一応私なりの提言でさせていただきます。

それで、市長さんもお答えいただいたんですが、無関心が一番怖いということで、つい6月15日の新聞を見ましたので、御覧の方も多いかと思いますが、一応読ませていただきたいと思っております。「選挙することの大切な意義として、有権者と政治家が関係を持つことがあります。投票すれば、任期中のその政治家の行動に責任を持ち、次の選挙では自分の投票は正しかったか、顧みて1票を投じられる。その繰り返して、有権者は学び、政治家は鍛えられる。投票しなければ有権者は無責任のまま政治家も鍛えられません」とこうありました。これは、千葉市長さん、熊谷俊人さんという若い市長さんみたいですね。この方がこう投げかけてあります。だから、私も今回2,067名の方から信任をいただきましたので、その言葉を肝に銘じてこれからの議会活動をしていきたいと、こう思って、第1の質問は一応もう時間の関係がありますからこれで切らせていただきます。

次、2番目についての、地域マネージャー制度についてですけども、このことについても市長さんが一番評価して、今のところの分析をしてあるのは、そのとおりであろうと思います。

私も、資料を役所からいただきましたけども、その中に如実にこう表れておりますので、私が言いたいのは、先に進んでるところはこのまま頑張っていればいいんじゃないかと。私もこのことについて、市長さんが理念とかいろいろお考えを述べられたことには共感しているというか、賛同できるものです。けども、今のままでは進んでるところと遅れてる地域、これの差が拡大するということを先ほど訴えましたけども、ぜひ、いわゆる進んでない地域へのでこ入れ、そのために市長さんが提唱されましたような、いわゆる区長さん以外に役員をつくると、これが大事じゃないかなと思うんですよ。

その中で特に私も有識者というのが地域にはおられると思うんですけども、こういう提言を試みたいと思うんですけども、その有識者の中には市役所のOBの方ですね、これはとても貴重な人材じゃないかなと思うんですよ。行政を知り尽くしてありましてね、そして地域でもまだ今60代から70代いっぱいの方がそれぞれおられる、この方々をぜひ頑張ってもらったら。そのほかに、教職員のOBもおられます。それからいろんなやっぱり退職後、対馬に帰って来られて

いろんな経験をしてある方もおられます。ぜひ区長さんだけに頼るんじゃないで、地域マネージャーだけに頼るじゃなくて、やっぱり地域の委員会なり、それからそういう制度を何か立ち上げて、バックアップしないといけないんじゃないか、こう考えます。

市長さん、その辺りいかがでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） まず、市役所のOBをはじめ、地域の中にいくらでもお手伝いをしているとか、やはり対馬のために汗をかきたいというふうにお考えの方はたくさんいらっしゃると思いますので、そういう方との連携が取れるような集落支援みたいな制度っていうのを早く形にしていきたいというふうに思います。そして、その方たちと一緒に物事を組み立てていきたいと考えております。

ありがとうございます。

○議長（作元 義文君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） それぞれ、そのことについてはまた時間的にもう少し余裕のあるときに、具体的なこと、進捗状況等またお尋ねをしたいと思っておりますので、きょうは一応これでおさめておきたいと思っております。

それから、生涯学習の関わりということで市長さんに伺ったのは、実は市長さん、こういう条例があるんですけども、お手元に資料ございますでしょうか。対馬市生涯学習推進協議会条例。市長さん、どうですかね。ございませんか。

これは、一応パネルとして示そうかと思って持って来とったんですけど、ちょっと読み上げさせてもらいます。「第1条 市民1人1人の生涯学習推進に当たって、市内の諸教育機能を有機的に整備充実し、生涯学習の施策推進に資するため、対馬市生涯学習推進協議会を設置する」とあります。対馬市にこれ、条例どおり設置されているのでしょうか、どうでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 設置しておるかどうかにつきましては、現時点では私の情報としては持ち合わせておりませんし、今、これを読みますと、私のほうが委嘱すると、委員は、というふうなことに、なっております。そういう中、委嘱したかどうか記憶に今ありません、済いません。

○議長（作元 義文君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） やっぱりこのことは、私が市長さんに生涯学習推進協議会のことをお尋ねしたのは、4条には、「委員は市長が委嘱する」とあります。そして第7条には、「協議会は、幹事会及び専門部会を置く」とあります。そして第8条では、「協議会の事務局は市長部局内に置く」となっております。

だから、生涯学習というのは、単に教育委員会の生涯学習課が担う部分だけではないんですよ

と、ですね。いうことを言ってるわけですし、ぜひ、このことについてはこの後、十分確認をしていただいて、もし立ち上げてない、と思います。私も聞いたことありませんから、立ち上げてないと思います。立ち上げていただいて、私が先ほど質問で申しましたように、対馬市役所、機構全体を上げて、生涯学習に取り組むということをぜひ打ち出していただきたいと。そうすれば、市長さんがおっしゃった、地域マネージャー制度の源流と相まってよく機能するんじゃないかなと。

そうしますと、教育長さんにもお尋ねした、生涯学習課の人員も、ここに今、資料持ってきてるんですけども、こういうような資料がございます。これは、平成16年には52名いた生涯学習課の課員が、24、25は私書いておりません。これ何人かと申しますと、ここで書くのをやめたんです、あまりにも少ないから。ここで22、現在は20名ですね、教育長さんですね。ここまで生涯学習課の機能が落ちています。これは市役所全体で担うわけですから、教育委員会の分だけをいっても始まらないと思うんですが、ここに象徴されてるんじゃないかと思うんですよ。先ほどの条例どおりに市政が行われてないということと合わせてですね。ぜひ、このことを御承知いただきたいと思っております。答弁あったらどうぞ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 申し訳ございません。この協議会条例というもの、今、設置目的を見るにつけ、先ほど答弁席において説明を申し上げましたように、その金山町とかいうところが以前からやってる1つの方向性というもの、そこに行きつくんだろうなというふうに、これを見ておりました。

最終的に、申しましたように、最終的な組織の方向性っていうのは、今の言ったようなこと、やはり私どもは模索をしていかないといけないというふうに思ってます。旧来のシステムとか組織のままで今の時代を乗り切っていくっていうのは、私は到底不可能だと思っておりますので、常に環境変化に対応できるような組織づくりっていうのを心掛けていきたいと思えます。

○議長（作元 義文君） 2番、小島徳重君。

○議員（2番 小島 徳重君） ありがとうございます。ぜひ、教育委員会も含めて、また御検討いただいて、方向性を打ち出していただいて、動かしていただきたいと思えます。

時間の関係で、ちょっと早口になりますけども。

最後の雞知保育所、雞知地区の待機待ちと言いますか、入所を現実にできてない児童が今のところ私は8名というふうに捉えております。美津島の活性化センターで聞きましたところですね。

それでこのことにつきましては、中長期的という言葉は私、使わせていただいたのは、雞知地区はゼロ歳から4歳までの人口が10年前に比べたら減ってないですね。そしてある地区は雞知地区の中でも瀬原とか西高浜は、倍になっています。そして、22年度に市が予測した雞知地区

保育所への入所予定は、111名という数字があります。ところが現実には136名入ってるわけです。これは、定員120に対して136入ってるわけです。そうすると、これはもう定員に対しての115%入れていいという法の規制が、決まりがありますから、ルール違反ではないんですけどもね、年度当初からそれだけ入っておりますと、年度途中にいろんな家庭の状況等で入所を希望した場合、特にゼロ歳から2歳までの子供たちは、もう入る場所がないわけですね。そして、市長さんもおっしゃったように巖原に行くか、3歳以上ならば周囲のへき地保育所に行けますけども。行けないという現実、実態があります。

だから、やはりこれは次世代の育成計画の中にありますけども、大船越のへき地保育所をいわゆる認可保育所にして、ゼロ歳から預かるようにする、これが1つの方策だと思うんです。それからもう一つは、鶏鳴幼稚園をこども園化して、そのためにはどちらも施設設備の改善、改修とかが必要でしょうけども、財政的なことを伴いますけども、雞知地区の子供たちが安心して、お母さん方が安心して子供を育て、生み育てることができるためには、根本的にやはり保育所の設置、それから定員、これを早急に検討いただきたいと思います。

2つの方法の一番どちらを選ぶか、それが行政が判断していただければよろしいですけども、雞知地区の人口がこのままでは多分減らない、横ばいの状態が続くと思います。特に、乳幼児についてはお母さん方は産休後に復帰しようにも預ける所がないから仕事辞めたと、辞めたらまた臨採で雇い直すと、こういう現実で声を私は実際に聞きました。

だから、雞知地区についてはぜひとも保育所、幼稚園との連携も含めたことで御検討いただきたいというふうに思っております。このことについては、また今後、後日にも時間のあるときに詳しくお話をさせていただきたいと思います。

そういうことで、一応きょう、私、初めてなもんだから、時間配分わかりませんから、4つも欲張りまして、ちょっと十分、答弁引き出すことはできなかったんですけども、私が言いたいことの意はくんでいただけたものと思っておりますので、ぜひこれからの施策に生かしていただけたらと思っておりますので、どうもありがとうございました。

○議長（作元 義文君） よろしいですか。いいですね。これで、2番、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を11時5分から行います。

午前10時50分休憩

午前11時05分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） おはようございます。ただいまから、通告に従い市政一般質問を行います。

私は昨年6月定例会一般質問の折、北部対馬の観光振興について、市長にお尋ねをしたところでもあります。その1つは、三宇田地区ホテル用地宿泊施設のいわゆる誘致のことです。その折、市長の答弁では、今後、全国規模による誘致展開を進める、強く発言をなされたことを鮮明に私は記憶にいたしているところでもあります。

それから1年を経過する中で、今回定例会初日、市長の行政報告では、対馬市が求める建設計画の基準に満たないことから採択を見送ったとのことですが、これまでの経過と最終判断について、市長の答弁を求めたいと思います。

次に、対馬市ケーブルテレビについてお尋ねをいたします。

本事業の取り組みと実施については、対馬市合併時、松村市長によりこれが執り行われたところですが、拠点施設の整備、ケーブルの引き込みは約4年の歳月を要し、総額74億円を超える巨費の投入を市の財源も投入する中で、対馬市としてはビッグなプロジェクトでございました。もちろん市議会にこの運営計画もなされたところでもあります。

この運営計画によりますと、指定管理方式としてその財源は一般世帯の受信料、それとインターネット利用料、その他の収入によるものとし、市の財政措置は施設の管理のみとし、俗に言う公設民営方式であります。その後、5年を経過する中で、次の点について、市の考え方についてお尋ねをいたします。

まず1点。指定管理期間は通常5年ですが、10年の指定管理に果たして無理はないのか、なぜ10年なのか。

2番目に、公設民営によるものと思いますが、これに間違いはないのか。

3番目。当初の試算では、7人程度の運営する内容と私は聞いておりましたが、現実には大きな隔たりがあり、このような運営に問題はないのか。

最後に、番組編成に新しい提案は今後ないのか。以上、4点についてお尋ねをいたします。どうぞよろしく、答弁お願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 大浦議員の御質問に答えさせていただきます。

北部地域の観光振興の一環として、三宇田浜のホテル誘致の公募というものが不調に終わったということは、昨日脇本議員の質問に答えたとおりでございます。

先ほどの御質問の中で、その公募の前後の経過というものを御質問でございました。

日本全国は視野に入れながら、ありとあらゆるところにこちらも昨年の11月以降、いろんな

形での接触というものはしてきました。多くのホテル関係、もしくはそこに通ずるであろう企業等とも話してきましたし、そういう中、結果的には2月、1月末の予定だったのを2月中旬まで延ばし、そして2社の申し込みがありました。しかし、最終的には1社は棄権をされ、残りの1社のほうで選定委員会等が作業をしたわけですが、どうしてもそれはこちらの選定する、選定基準と言いますかね、また北部対馬が求める基準と言いますか、それを想定しながらこちらはやったわけですが、それにはなかなかかなわなかったということでございます。

また改めてその選定基準等の見直し若しくは個別に当たっていきいたいということは、昨日、脇本議員の答弁のときにもさせていただいたところであります。

次に、CATVのお話がありました。このCATVにつきましては、平成20年の11月1日から指定管理を株式会社コミュニティメディアさんのほうに管理運営を行っていただいております。今、大浦議員がおっしゃられたように10年間という業務期間を設定をしました。

この10年がなぜなのかという御質問がありましたけども、その当時においても、議会において皆さんで論議をし、そこに収まったというふうに私は記憶はしております。それが今、なぜここで、そのときもいらっしゃる大浦議員のほうから再度御質問があるのか、ちょっと解せん部分がございますけども、そのときのお話を繰り返させていただきますと、少なくとも初期投資等々がございますして、単年度黒字が出る、累積が黒に転換するまでの期間を考慮すると7、8年はかかるから、だから10年というスパンでいかないといけないんじゃないかと。大浦議員のほうから5年が通常じゃないかというような趣旨の発言でございましたけども、指定管理に関しましては、さまざまな期間は設定は認められておるところでございますして、3年、5年、10年、いろんなケースがこれに関してはあるということをお理解をいただきたいと思っております。

次に、公設民営というお話がありました。あくまでも、公設民営っていう部分に関しましては、今の時代、平成15年ですか、の地方自治法の改正以来、指定管理っていうものに全く変わってしまったということをお理解をいただければと思います。

指定管理とは、あくまでもその委託者との間の契約によって行われる管理委託制度とは性質を異なるものでありまして、議会の議決を経た後に、指定という、その行政処分により指定管理者の法的地位が成立するというものになっております。

また、管理委託制度では、受託者となりうるものは、公共的性格を有する団体に限定をされておりましたけども、この指定管理者制度を導入されてからそれらに限定するものではなくて、営利法人にも管理を代行させることができるようになったところがございます。だから若干、公設民営という考え方は違うんじゃないかというふうに私どもは理解をしております。

以上でよろしいでしょうか。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 三字田のホテル用地利用、このことにつきましての公募のあり方、これについて詳細にもう少し説明できんでしょうか。

例えば、1万平方メートルにどの程度の基準を設けてやったのか、これは市長でなければ担当部長で結構ですが、私は全くその内容はわかりません。どういうふうな基準を設けたのか、市が。その辺を、詳細を教えてください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 当然、公募要項なるものをつくりまして、みんなで組み立てをこれはしたところであります。そのときに、最も大切な視点というのは、既存の方々とのバッティングを極力避けることも大切ではないかと。要は、宿泊者数を増やすためのことでもありますので、ともにそれがバッティングし合うようなことではいけないのではないかというふうなことがございました。

それともう1点は、この用地の北部地域のあの場所というものを考えたときに、とてもロケーションのいい場所でありまして、それを考えたときにグレードの高いものをここは求めていく必要もあるのではないかというふうなことが大きな柱となりました。

そういう中、細かい部分に説明をさせていただきますと、客室の広さについては、平均、平均50平米、それから全体での部屋数を30室程度は欲しい。そして、質の高い宿泊施設、また高水準の価格帯を中心とすることというふうなことも上げております。

そして、営業開始までの期間でございますが、これについては概ね3年以内の開業を目指す場合というふうなこと、後、二、三点、コンベンション機能とかいろんなそんなこともあります。いや、決してコンベンション機能の有無は問わないというふうな書き方で出しておりますので、そういう部分はありますけども、大体の柱としてはそういう柱で条件的なことはなっております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） さらに踏み込みたいんですが、グレードの高いもの、そして50平米、そして30室、これはもう少し掘り下げればグレードの高い50平米、2人ぐらいのツインの宿泊というふうなことが想定できますが、例えばそのようにした場合の宿泊料金、これ当たりはどのくらいの程度に範囲があるものでしょうか。そこら辺り、詳細をお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 価格の設定というものは全くこちらで数字では出しておりません。言葉で、高水準の価格帯を中心とするということでございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） もう一つ、あの50平米の何人宿泊ぐらいの規模になるかとい

うこと、その部屋に。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 50平米30室程度と、平均50平米ですね。そして30室程度ということだけの縛りでございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私も、情報の入手はどこからしたかということでありますから、その辺については何人かの接触する方がございますから、若干その方から直接お聞きしたこともございますので、根拠についてはそのように理解してほしいと思います。

まず1つは、金額がかなり高い設定で、2万円前後の宿泊料の想定をしたことを望むというようなことが具体的に言葉で聞きましたが、現実の中で気持ちはわかるんですが、そして50平米の問題が実際ビジネスクラスになれば1万円を下ることで考えた場合、4人ほど宿泊できる。そうなれば、高価なホテルをつくった場合60人だが、ビジネスクラスでいけば120人が入る。こういうふうに理解するわけですが、どうも審査の市の基準は高額のほうに焦点を置いたことで、今回の基準が設定されたとは私は見たんですが、担当課長でも結構ですが、そのような金額を耳にしたんですが、間違いございませんか。2万円から3万円と聞いたんですが、その設定の水準を希望でしょうけどもね、あくまでも。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 今、大浦議員さんがどこからそのようなお話を聞かれたか不明ですけども、市長が申しますように高品質の価格帯ということで、一切いくらというような提示はいたしておりません。高水準の価格帯ということで、一切宿泊料金についての提示はいたしておりません。これが事実でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そんなら、2万というのは私が聞き間違いということでもいいですかね。そういうふうなことが、ある審査委員の耳から入ったんですが、そういうことを実際、市は考えておるといことで聞いたんですが、いいんですかね。このことは、その、前へ進みますよ。

それと、市長にお尋ねします。対馬の宿泊施設の実数、これ、何回も私も申し上げましたが、約1,700を超える人員が1日当たり宿泊できる、これは観光の会議で聞いております。

そのうち、厳原が848人、28軒、美津島が15の478、とんで峰、豊玉とんで上対馬8軒の309ですよ。上県が4の66、この韓国の現在12万人を超えるんじゃないかという今年度の数字の中で、上対馬には6万という数字が、船の、船舶の着岸の都合、半分は入っておりますよ。だから、この309人、8軒というのをいかに打破するかが課題であります、今

回の市のホテルの基準の設定に、私は考え方いろいろあるからわかりますが、今緊急に対応せな
いかんのは、私はビジネスクラスの宿泊を大量に上に備えることが一番大事なことじゃなからう
か、かように思っております。その点、市長いかがですか。市の今回の問題と、現実の中で迫っ
ていることが私は若干はき違えじゃないかと。いや、失礼、そういうことじゃなくて、そちらの
ほうにも力を入れていいんじゃないかという思いが多分にありますが、市長、いかがですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 当然、御存じのように市有地、市民の財産をこういう形で無償で貸与し
ていこうというふうなことの案件であります。そういう意味において、市民の方々がどこを考え
ていかれるか、そしてどのような客層を考えていかれるかということも思いめぐらした結果、今
回の募集要項についてはこのようなことにさせていただいたところでございます。

ただし、不調に終わったのは事実でございます。それらを踏まえ、次にどのような形のものを
模索していくかというのを、今、個別に企業とも接触もあっております。それらのことも不調に
終わったことを踏まえながら物事の組み立ては当然していきたいと思っておりますし、先ほど言
いますように、市民の思いというものも考えながら組み立てていきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私、去年の6月にこのことを一般質問したときに、あくまでも
比田勝港に上陸する観光、旅行者がおるにも関わらず地元で宿泊することがなく、ほとんど厳原、
美津島のほうへ大型バスに乗ってその行方が消えていく。そして帰りに、通過点として上対馬に
また戻ってくる。これでは金が落ちない、せっかくの、人が集まる場所でありながら、お金を落
とす仕組みを変えるには、この一番弱点である宿泊施設の充実を市が積極的に進める。そうしま
すと、グレードの高いものという前に、いかにこの現実の、年間6万人相当のお客を上に来てお
ることを何としても引き止める。このことが私は行政の見方として一番当たり前の方向じゃない
かなと思っておりました。

しかし、グレードの高い、そして12月になってそれが出ました。はっきり言いまして、あの
市長の勢いであれば、9月過ぎにはこれをまとめてくるだろうと、私はかように思っておまし
た。そんなに1年もかかることで、このことが経過をすることについて、私は遅すぎると思うん
ですが、結果的にこれもだめやった。その行方について非常に、もう少しピッチ上げる必要があ
ったんじゃないかというふうに心の中で思っております。いかがでしょうか、市長。そんなに
12月の時点じゃないとこのことができなかったということは、そういう過程というのがあまり
にも長過ぎたと私は思いますが、いかがでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 皆さんの求められるスピード感というものに私どものスピードが全く合

ってないという部分については、現実問題としてこの問題に限らず、さまざまな問題においてそのようなことはあっておるといふふうに思いますし、今、御指摘のこの問題について遅かったんじゃないかということでございますが、それについては、素直に私は遅かったと、その皆さんが求めるスピード感には合ってなかったといふふうには、ここは認めていきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） もう、前に進むことが一番大切でありまして、私はここで市長に希望いたしますが、グレードの高いこともいいでしょうが、双方ができるような施設も、いわゆる金額で言えば、6,000円から1万円の範囲もあろうし、4,000円もあろうといふような範囲を設けて、これだけのお客さんが来ながら上に宿泊できないという現実を解消する方向に、私は改めていただきたいという、1人の議員の思いでございます。ですから、また見直しをされれば、早くこれを取り戻してください。そういうふうに思っております。

1業者と会いました。どうであったんですかと。私も聞き取り行きました。お宅の気持ちは。前向きであったけども、今のところもうやる気ありませんと。私は残念だなと思いました。これはしょうがございませんが、せつかくのやはりチャンスやら思いというのは、なるだけそのときに固めていくのがやはり事業だと思います。残念なことであったことを私も感じました。

それから、もう一つ大事なこと言い忘れましたが、私は対馬全体を考えた場合、厳原だけが、あるいは美津島の一部だけが潤ってはいけません。たまたま韓国からの船は、厳原港と比田勝港に寄港します。ですから、このサイクルを生かすためには、厳原と上対馬の2極の港が、宿泊できる体制を整えない限り、対馬の発展は私はないと思っております。その点、大きな、大きな政治課題だと思うんですが、市長、この件最後ですが、上対馬港の、比田勝港の周辺の施設の整備と対馬全体がいわゆる回っていくといふようなことにつながるということの認識を、市長の考えと私の考えどう違うかちょっと、同じであればそれで前に一緒に進みたいんですが、その辺についてどう思われておりますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 港は、大陸からの入込に関しましては、当然お客のもてなしということ考えたときに、船の滞留時間等を考えれば、比田勝で入出国をしていただくことが最ももてなしの最たるものだろうということ、常に考えておるところでございます。

しかし、これらのことは、航路事業者の判断でございますので、そこで向こうのほうにも委ねていきたいと思いますが、当然多くの方が割合的には入るであろう比田勝ですね、こちらに、この周辺において、そのようなおっしゃられるような宿泊施設等が早期につくれるように、先ほど御指摘がありましたけども、私どもも、もっともっとスピード感を持って取り組んでいきたいといふふうには思っております。

条件等については、十分に先ほど申しましたように、不調の原因だったことの分析、さらには昨日の質問のときにもお答えさせていただきましたけども、自然公園法の部分からの切込みをやっているうちに、その建設を緩和してもらえらる形に努力も合わせてしていくということも大切なことだと思っております。

そういうところで御理解いただければと思っております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 何遍も繰り返しまして、申し訳ないんですが、絶対数として足りない一般的なビジネスクラスの程度も含めて、前に進んでほしいということ早く企画をして再出発をしてほしい、このようなことを私のほうからお願いをいたしまして、この件については終わります。

CATVの対馬ケーブルテレビのことについて、質問を切り替えます。

今、市長、手元にあるのが、平成20年度の年の上半期にこの資料をいただいたろうと思えます。これは、市役所に行って、対馬市議会に提出した最終資料ということで、私はいただきました。

それと、現在の指定管理のコミュニティメディアさんが年に1遍実績報告をしておりますから、これを対馬市情報公開条例の手続きにより、収支報告書と貸借対照表の24年度の資料を元にただいまから質問に入りたいと思えます。

私が書いておる、申し上げました、10年のことについては、もちろん市議会にそのことがございました。平成20年と21年は、サービス、放送のサービスの健全な状態じゃないから、この期間を暫定期間として500円の聴取料にすると。一般家庭の聴取料を500円。このようなことございました。

通常放送はそれ以降は1,000円で、事業所については2,000円、インターネットの利用料は2,500円、そしてその他、コマーシャル等その他について運営を行う。これが、議会に出された説明資料でございます。

そうしますと、この一番左側下でございます。2カ年で2億7,000万円のマイナスに入っております、この数字が。そして、まともに運営すれば5,000万儲けますよというような試算が書いてあります。それを市議会には説明をして、最終的には指定管理の方向にされたと思えますが、これが最後の資料と私は思っております。それしか持ちません。

それから5年たって、現実を見たときに、決算報告の概要では年に700万円の黒字しか上がっておりません。そして累積において1億2,000万の負債がございました。だから、負債のことわかるんですが、収入の基本がまるで当初と現実はなっておらないということ、私はそのときに改めて感じました。

市長、もしくは担当部長で結構ですが、24年度で結構ですけども、このようなことに認識はどう思われておりましたか。もしこの決算と、あるいは部署から報告を受けた中で、その把握はどのようにしておられたか。あればお話を聞きたいと思います。総務部長さんでも結構ですよ。一般的な話ですから。市の指定管理者に対して業務を委託された中で、現実をどう見ておるかということ、私は言ってるんです。市側の見解。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、おっしゃられた部分でございますが、指定管理の制度というものがあくまでも報告調査権というもの、それから実地調査権というものが認められている部分がございます。その範囲において毎年確かにおっしゃられたように実績報告等が出されているというふうに思いますが、これらの状況というのが指定管理をどうのこうのするとか、いうふうなことまでは言ってませんし、何ら問題なく物事は進んでいるというふうに思ってますし、できれば今いただいた表のように、累積が8年目にプラスに当初のように転じていただけるように、インターネット加入等の部分において、当初の加入率をクリアをしていただけるようお願いを今ずっとしてる状況でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今、その当初と現実が今なぜ違うかというのは、まさに今申し上げます、インターネットの利用料、これが3割ぐらいに見たのが22%、これの2,500円掛け12カ月の大きな金額の差、それから一般の利用料は、まして当初より計画は増えておりますね。しかし、事業所の計算は半分以下でございまして、2,200前後の、いや、もとい、2,300ですか、そこらの数字が690の現実の掛けるひと月2,000円。そういうふうな、大きなひずみ、差が出ております。それで、このままいけば、恐らくうまい経営にはならないだろうと私は思っております。

それで、そのことはちょっと現実の話としてはそれで終わらして、先ほど申し上げました、公設民営の考え方なんです、あそこの施設については旧MYT、美津島有線放送の後の施設を全部お借りしまして、その他は75億相当のお金は、ケーブルの引き込みとその他機械器具、このように聞いております。

ところが、その美津島の施設の中に現在25人ほどの職員の雇用と申しますか、入っております。それで、現実の中でやっていけるのかなと最初見てたんですが、どうも裏にそういう建物をつくったりしておったように私ははっきり記憶があります。担当部長は新しく変わられてそこらは把握はしておりませんか、公設民営の範囲は超えてるんじゃないかと私は見たんですが、もし御存じなければこの場でせめてもしようがありませんが（発言する者あり）そうですね。ちょっとその点、公設民営という中での建物の中に十分な対応があったかということをお聞きし

ます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど答弁で言いましたように、公設民営、私どもが今まで頭の中で持ってる公設民営と指定管理とは、違うんですよというふうなことを、私どもはちょっとこう考え直しをしないといけないんじゃないかなというふうに、先ほどは答弁させていただいたところでございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） だから、今の1事例について、市が当然施設対応せなならんことが、せないかんこととせんでいいこととありますが、裏の建物の建設については当然市が行うべきでなかったろうかと私は見てるんですが、この中におられますかね。そうか。比田勝部長は別の部署やからですね。私はそのように思っております。市長は御存じですか。裏に施設をつくっておるのは。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） いや、別に、そこが営業、先ほど言いましたように、営利法人が受けていいような制度でございますし、この指定管理というものは。

そういう中で裏の市有地を借りて建物を建てて、今のこのCATVの事業というものの運営をしていくために借り、自分らでそれをやっていくというのは、何ら問題はないんじゃないか。そこに行政があえてつくり込んで、またどうぞっていう話とはまた違うんじゃないかという、向こうの都合の部分がございますので、そこは向こうの範囲でやっていただく分は構わないと私は思っておりますが。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 当初の計画に不備があったんじゃないかというふうな指摘をするわけですよ。というのが、この運営をやるのが7人程度のことで私はちょっと聞いたことがあるんですよ。聞き損ないかもしれませんが。現実25人の数字がどっから出たかというのは、実際やられとる中でありましようが、私、壱岐市のほうにもちょっと問い合わせしてみました。どのくらいの人員でやってるんですかと。20人やったです。世帯数は1万1,000戸。そして、利用料は1,000円。それだけでやっておりましたよ。だから、私は当初の施設の対応が頭からあまり全体を考慮しておらない設計を市は組んだんじゃないかという思いがしております。ですから、そのことをかいておるわけですが。その辺を、市長、お宅のおる前の話ですよ。（発言する者あり）このことにつきましては。（発言する者あり）私、そこをね、できれば精査してほしい、このように思っております。精査という意味です。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど言いましたように、私どもに与えられてる権利の中で、年に1回事業報告が上がってきておるわけでございますけども、そのときもあと細かいことについて、月に、週に1回ぐらいお見えでいろんな相談というのはされてますが、今のおっしゃられた経営のことでこうだからというお話は一切こちらには上がってきてないんですけども。

そしてもう一つおっしゃられたその7名という、自分が覚えてる範囲の話とおっしゃられましたが、仮にそれが25名になろうと、それは民間の営利企業の経営の話でございますし、まして壱岐が20名というお話の中で、25名であろうが、極端には30名であろうが、そこで物事を10年間ぴしゃっとやっていただくということが、私どもの願いでございますので、そこに向かって受けられた、指定を受けた業者さんは取り組んでいただくというお願いをこちらはするばかりですけども、急激な何か別の要因で赤が致命的なぐらいというふうな状況になったときは御相談はあろうかと思いますが、現時点においてはそのような御相談はあっておりません。

それと、インターネットのお話がありました。インターネットに関しましては、対馬と本土間とのケーブルの細さというもの、これが島内の加入率を引き上げていかない要因の1つにもなっていると。それはCATVのみならず、さまざまな私どもの使っているスマートフォンにしてもそうなんですけども、この辺りの改善を図っていくためには、この通信ケーブルの拡充ということがありますので、それらについて先だってお見えでした管轄する総務大臣のほうにもお話をさせていただく。それが大きくなれば、当然このスピードとか容量というものが変わってくれば加入率も上がってきて、早くにインターネットの部分で赤字であるならば、それが累積赤字が7年目が6年目とか、そういう時期に生まれてくるような環境を私どもはやっていくということだというふうに私は理解しております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 現実の数字が全く市の考えておったような方向に無いという現実、これは決算書を見ればわかります。

それとその中で、かなり無理なことが起こっておることは耳にしました。しかしこれは経営の中でのことですから、中に突っ込むことは私もこういう場所ではできませんが、かなりの従業員のほうがハローワークの、いわゆる公募の中でせっかく来られて、相当のこの5年間で若い方が挑戦されて、その採用できなかつたようなことがたくさんあっております。

これはちまたのうわさでございますが、根拠は、数字は確定はいたしません。大量の方がせっかくのこの職場を求めて行ったんですが、甚だしい数の方が辞められていった、これもよくよくまた話を聞くなり、その根拠がどういふふうにあるかという、やはり経営の中身というのを私は知る必要が、この指定管理の条文の中でございます。市長はやらないかん1つの努め、書いております。この中で、私は第10条にありますね、そこらを職員さんも任したから終わったんじゃ

なくて、大丈夫だろうかという思いで、常に1年間の報告の中で、その追及をして、これでいいんだろうかというふうな思いで指定管理の管理監督に当たってほしい、このように思います。

それで、今申し上げました、会社内部のことをこの場で言うことは不適當と思います。しかし、大勢の方が短期間の内に去られて行ったことを聞いたときに、火の車であるなというような思いがして、この問題に調べていくような気持ちになりました。

市長、あなた首を振りよるけど、この中身わかってますか、決算書、見ましたか。いや、決算書、見たことありますか、あなた。（発言する者あり）そうですか。その収支、700万の収入のこと、どう思いますか、あなた。首を振りよるけども。収支の700万のことが決算上、これだけしか上がとらんことをどう思いますか。いや、あなた首を振りよるばってん、厳しい現実やないですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほどの話の中で、職員採用のことが出てきましたけども、あくまでもこの指定管理っていう制度の範囲におきましては、社員の採用権限等々については私どもは一切監督権が及ぶところではありません。あくまでも財産の管理の問題、それから会計、職員の給与の問題ということにつきましては、私どもの監督権限が及ぶところでございますけども、採用権限等々、人事関係については一切及ぶところではございませんので、お許しをいただきたいなと思っております。

700万うんぬんくんぬんありますが、当然コミュニティメディアさんのほうは10年間の物事の組み立て方をされて、今をこういう活動をしてあるというふうに思いますので、そのことでこちらサイドに一切御相談とかいうのありません。そういう中で今大浦議員が、火の車やか言われて、いや、私は全くそういう感覚では捉えては、逆にいないというのが私の考え方です。

当初から累積赤というものを七、八年というのを設定されながら、この事業に取り組んでおられるということで、今その中途にあるというふうな考え方で、私は理解をしております。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 市長と私の見解は、全く異なっております。それは、収支の面でそうっておらないということと、市が考えておった当初の方向が大きな差があるということ、現実の中で、私は見ております。

以上で、質問を終わります。

○議長（作元 義文君） これで、16番、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩とします。午後は1時から開会をいたします。

午前11時54分休憩

午後1時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 市民の声を生かす、市民の市政をモットーに頑張っております。今回からは11番が14番になりました。14番議員の小宮教義でございます。昼からの非常に眠たい時間でございますが、私の持ち時間はわずか50分でございますので、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

先月の5月19日、私どもの市議会議員の選挙がございました。私も辛うじて21人の中に入れていただきました。まずもってお礼を申し上げさせていただきます。ひな壇には、市長さんをはじめ、市の幹部の方がたくさんおいででございます。私がこうして選挙に通って、そうしてこのような場で物を申すことは非常に残念であろうかと思いますが、（笑声）これも選挙でございますから、ひとつ今後ともよろしくお願いをしたいと思います。

私は、選挙のときにも申しておりましたが、私どもこの議員、仕事は何をするのかということでございます。議員というのは、行財政の批判と監視これに尽きるわけでございます。いいものはいいんだと、悪いものは悪いんだとはっきりと物を言う、これが私どもの仕事でございます。

そして、議会の責任とは何ぞや。私ども議会、市長の追認機関じゃございませんけども、これについては、今月の6月8日の新聞の記事でございますが、非常にいい記事がございますよ。これは、福岡県の中間市議会の記事でございます。この中間市というのは、対馬市の人口よりも若干多うございます。4万4,000人ほどの人口でございます。そして、議員の定数が19でございます。この記事なんですよ。これがすごい。こういう内容です。中間市議会自主解散、生活保護不正事件。これは、この中間市の職員の3名の方が、この生活保護でいろいろと問題を起こしております。これについて、この中間市議会、議会としてどう対応するのかという内容でございますが、このように書いてございます。当然、動議を出されるわけですが、その動議の内容でございますよ。これがすごい。いいですか。市長と同格である市議会もチェック機能を果たせなかった。選挙で市民に真意を問う以外にないんだとこういう提案がされて、さらに驚くのは、解散でございますから議員の賛成の比率も高うございます。そして、出席者の5分の4以上で可決しなければならないわけでございますが、びしゃりと可決しております。そして自主解散。やはり私どもこの議会、新しく始まりましたが、やっぱりこのようなことがないように、やはりもっとチェックをするということを感じたわけでございます。

それと、私のもう一つの仕事がございます。これは、前回の私の任期のときに取り残した仕事でございます。これについては、きのうの一般質問でも話がございました。それは、いつはら病

院の跡地の問題、ケアミックス型の60床程度の開設、これでございます。

これについては昨年の12月の議会において、私の一般質問において、市長はこのように答弁をされておられます。これは、非常にすばらしい答弁ですよ。途中でございますけど、自分が約束をしたことであります。ケアミックスというものを今の対馬いづはら病院の跡地に設定をしていくと、これは私の最も大事な、今回、厳原地区の方にとって最も大きな約束だったと思っております。その約束をできないときには辞します。それはこの場で明言をしますと、その壇上で言われたわけでございます。そして、くだりとしてはこうでございますよ。そういうことでぐだぐだとやっていく予定は全くありませんと。いいですか、もう一度申し上げますよ。その約束ができないときは辞します。それはこの場で明言をしますと、ここがぴちゃっとくるところですけども、そういうことでぐだぐだとやっていく予定は全くないと、こういうふうな答弁をされております。この跡地問題については市長の行政報告もございましたが、今、中対馬とそれといづはら跡地の検討委員会が、近いうちに基本的な方針を出すそうでございます。この問題を見きわめるのも、また、私の仕事でございます。

今、この日本国、アベノミクスといいますか、非常に景気が上向いておるようでございます。しかし、この円が安くなると油代が高くなりまして、特に、この離島における対馬、大きな問題でございます。そして、皆さんも御案内のとおり、株価の乱高下が非常に激しゅうございます。やはりここは政府として次の矢を射て、安定に努めていただきたいと思っております。

そして話は変わりますけども、来月は7月21日、参議院選がございます。3日ほど前ですか、都議選がございました。今回は都議選と同様に自民党の圧勝でございます。特にこの比例で、安倍首相の補佐官として活躍をされております衛藤晟一さんにも頑張っていたいただきたいと思っております。そして、この前まで政権をとっておりました、何という党でございましょうか、民主党、これは今まさに虫の息でございます。この夏の蝉の声と同じように、この8月を過ぎると聞こえなくなってしまうわけでございます。

余分なことを申しましたが、さきに通告をしておりました3点について市政一般質問をさせていただきます。

まず第1点の離島における海上運搬の助成についてでございますが、これについては本年度の予算に、活魚、鮮魚そして木材加工品が、この新法により制定された離島活性化交付金を生かして助成をされておられます。そして、きのう、おとといですか、本会議でもございましたが税の平等それだけではないんじゃないかと、ほかにも税としての公平さがあるんじゃないかというお話もございましたが、そういう観点からすると、このその他の物これにかかわる副産物、つまり皆さんもよく食べる鰯の開きなど魚の干し物、そして海産物のアオサですか、とか、よく「黄金あなご」ございますがアナゴの加工品など、このようなものについて何か助成の方法はな

いのか、補助する方法はないのかという点が1点目でございます。

そして2点目は、観光交流センターの建設について。この観光交流センターというのは、今、厳原町の対馬交流センターがございます。その横の空き地、今、駐車場になっておりますが、ここでの計画でございます。これについてでございます。

今、対馬市が進めておられます仮称ではございますが対馬博物館の建設、それと都市計画における都市再生事業の城下町の関係、この計画はどういう整合性を持っておるのかという点でございます。

それと、続きでございますが、同様に、横の対馬交流センターここにはショッピングセンターも入っております。このような関係の調整はどのようにされたのかという点でございます。

そして3点目が、市職員の懲罰について。これは、昨年12月に公営住宅の家賃の徴収において不祥事が発生しております。平成10年から24年、約14年間にわたって発生しております。そして、その内容は、取り過ぎた家賃が3,156万円、そして、これにかかる利息が2,101万円、トータルしますと4,358万円、非常に大きい金額でございます。そのときに、私の質問に対して市長は、懲罰の検討をするというお話をされておりましたが、どのような処分をしたのかという、以上3点でございます。市長の答弁を求めます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、質問を聞いておりまして、先ほど午前中に質問に立たれました小島議員さんのことを浮かびました。といいますのは、投票率の低下ということの御質問がございました。私たちは批判と監視だけをすればいいんだというふうなモットーのようにありますけれども、逆に、その監視、批判、結構でございますけれども、足を引っ張っていくという、ややもすると、対馬よく言われる問題でございます、全体の。そこに対して市民というのが、あ、もしかすると若干そこに対する拒絶反応があったのかなと、そういうこともあったのかもしれないと、今、御質問を聞きながらそう感じた次第です。そのことによって市政が停滞している状況には置いてはいけないと、お互いそれが市民に対する責任だというふうに思います。そのことをしっかりと全うしていきたいというふうに思います。

12月の答弁をずっと議事録を読んでいただきました。まさしくそのとおり言っておりますし、自分の考えは変わりません。恐らく14番議員のことですから、質問されるたびにそれを毎回言うつもりでございますけれども、それも結構でございます。自分の考え方は全く変わりません。それほど、いじりな男ですので御心配なく。忘れることはありませんので。ただし、……。

○議員（14番 小宮 教義君） それは結論が楽しみですね。

○市長（財部 能成君） え。

○議員（14番 小宮 教義君） 結論が楽しみで……。はい、どうぞお続けください。

○市長（財部 能成君） しっかりと市民が物事を判断はしていただけるものと私は思っております。

通告にありました1点目の、離島におけるこの海上運賃の問題が出されました。現時点において3品目だけでございます。この輸送コストについては、市議会も私どもも一緒になって、国に対して新たな離島振興法が組み立てられる段階において、ずっと言ってきた話であります。

で、それを離島活性化交付金というものを国が組み立てる中で若干、日の目、その功名が見出せたのかなと思っておりますけども、やはり国も財源見合いの関係で、当初2品目だけを戦略品目として限定を实はしてきた経緯がございます。そういう中、途中経過において私どもは、とてもじゃないけど2品目なんていう品目では島の輸送コストの軽減にはつながらないということで、この問題には改正をさっそく声を上げました。そういう中、当初国のほうで、たしか8億円予算化されていたと思いますけども、全体で。それが2億円追加され10億円まで上がりましたが、品目数については交付要綱の中で2品目から3品目までしか伸ばせないというふうな、現実的なところでこれは折り合ったところがございます。今言いましたように、全ての品目にわたってしてもらいたいのは当然やまやまです。それを広げる努力は当然していきたいというふうには思っておりますけども、そのあたりの事情というものも理解をしていただきたいと思っております。

そういう中、どれを本当、うちの戦略品目に上げればいいのかというふうな協議は、内部的にはずっと詰めました。そういうとき、今おっしゃられた加工品の話がありましたけども、これも当然みんなの論議に挙がって、みんなで話した結果として、とても、輸送コストという意味において算定がすごく難しいと、加工品の場合。というのは、宅急便で物事の動かし方をされているケースが多いということ。もう一つは、鮮魚とか活魚とかと違いまして、その系統を通じての出荷とかということにならないものですから、そこの把握というのがとても困難をきわめるということもありました。そしてもう一点は、その加工商品については価格設定の段階から輸送費を込み込みといいますかそういうケースもあると、それをどのように判断していくのかというのがすごく難しさがあるなということで、品目の限定もございますけどもそういうこともあり、今回は見合わせている、私どもとしては、その中に入れ込めることが難しかったというふうに御理解をいただきたいと思います。

ただし、この加工のお話ですけども、観光物産推進本部の分析、そして福岡事務所のほうの分析によりますと、その対馬から出る加工品関係のやはりパッケージとか、表示ラベルとか、これらについて市場関係者や消費者のほうからも改善を求められているという現実もございます。そして、これらに答えていくために商品改良、もしくは商品開発、さっき言いましたパッケージの問題、デザイン等も含め、これらの支援メニューというものを構築を私どもはしていく必要があるんじゃないかというようなことで、内部的に組み立てを今している段階でございます。決して、

加工品目を戦略品目から外すというだけ、そういうことじゃなく、次なることも組み立てをしているということで御理解をいただければと思っております。

さらに、加工の連絡協議会に対しましては今年度もその補助金として80万円を交付して、本土でのその物産フェアとかそういうものを、商談会等々をやっていただきたいという思いで補助金を組み立てをしているということも御理解いただければというふうに思います。

次に2点目の、観光交流センター、仮称でございますけども、これと、ビジターセンター跡地を中心とする博物館の計画、さらに、厳原城下町地区の都市再生整備計画との整合性、さらには、隣接する対馬市交流センター通称ティアラとの調整はどうなっているんだろうという話でございました。この3つの施設の役割という問題、それから、機能分担の関係について述べさせていただきますと思います。

この問題については結構な歴史がございますので、若干の時間をお許しいただければと思っております。

まず、仮称歴史海道博物館の建設計画につきましては、本計画は老朽化した歴史民俗資料館の機能と地域の活性化に資する機能を長崎県と協力して合築しようとするもので、対馬の豊かな自然や、宗家文書をはじめとする歴史、文化遺産の調査研究を進め、その価値の顕在化と情報を発信する機能の充実を図ろうとするものです。市内には名勝、旧跡も数多く存在しており、豊かで貴重な歴史的な文化遺産を題材に、対馬まるごと博物館というものを掲げ、郷土愛を育み、訪れる人々を島内各地へ誘導するようなつくり込みを行い、満足感を与え、島の観光に貢献させるような施設づくりにしたいというふうに考えております。

この厳原地区の現状でございますけども、当然もう御存じのように、城下町としてずっと栄えてきたところでもありますし、韓国プサンとの国際航路も開設され、入り込み客数も年々増加している状況です。この地区のポテンシャルの高い地域資源の発現というものを図りながら平成の城下町づくりを目指して、住民自身の誇りの醸成と、地域の活性化に取り組んで、今までもまいりました。その一環として、国の指定文化財であります宗家菩提寺万松院、それから江戸時代初期の居城であります金石城、朝鮮出兵の際の出城であります清水山城が連担するこの史跡群というものを中核ゾーンに位置づけ、遺跡の修復や、埋没した心字池の復元などに取り組み、その他の市街地内では、城下町の風情を醸し出す街路灯の整備、さらには武道場の再建、日新館門の復元など、さまざまな事業に取り組んでまいりました。

そのような中、平成12年3月には厳原町中心市街地活性化基本計画というものが策定され、自然と歴史を生かし、訪れる人にとって心にしみるもてなしを感じ、住む人にとって元気で安心して心豊かな生活が味わえる交流と福祉のまちづくりを理念として、保存と再生をテーマに、歴史文化保存ゾーン、都市機能集積ゾーン、風情ある商店街ゾーン、都市機能再配置ゾーンの市街

地のゾーニングが提唱されました。

また、同年8月に日韓コアシティ計画が策定され、自然と歴史文化と交流の島対馬を整備テーマとして、対馬全島の整備の目標や、役割分担、整備方針を踏まえ、対馬の牽引役としての厳原市街地の位置づけ、清水が丘の史跡群を中心として中核施設となる施設を建設し、周辺地域にまちづくりの機能分担を行うことが提唱をされました。

いずれにおいても、中心市街地を機能ゾーンに分け、まちづくりの方向性を模索をしているもので、自然と、歴史、文化をテーマに同じ方向を検討してまいりました。そのような中、中心市街地活性化の理念に基づき、今屋敷地区市街地再開発事業が施行され、商業と公共の相乗効果による交流人口の拡大を図り、活発な商業展開と中心市街地の活性化に資するため、町並みの再構築を図ることとなりました。

また一方で、美しいまちづくりをキーワードに、市民参加による協働のまちづくりの取り組みが始まり、中心市街地の問題点とその解決策の方向性が協議、検討され、その一環として、中村地区では半井桃水館を中心とした市民参加による街並み環境整備事業を展開してまいりました。このような市民参加型によるまちづくりの機運が高まってきました。このことにより平成17年から厳原城下町地区都市再生整備計画を策定し、市民、観光客の交流拠点としての中心市街地の再生を目標に掲げ、今屋敷地区再開発事業や街路事業と連動し、まちづくり交付金事業を活用してさまざまな事業を実施しているものです。平成17年度から21年度を第1期事業として、さらに、第2期事業を22年度から26年度までの5カ年間で、幼稚園の移転や横町線街路事業、観光交流センター建設、道路の改良や美装化など、中心市街地の再生に向けた事業を展開しております。

また他方で、宗家文書資料等保存活用施設整備基本計画が策定され、宗家文庫資料を中心とした歴史文化資料の保存と活用の方策が検討され、専用の施設の必要性や活動方針が策定されました。その中で、建設場所として現在予定している場所が選定されており、施設づくりの留意点として、宗家文書のコア施設づくりとして、保存、調査、研究機能、情報発信機能、開かれた施設づくりとして展示普及機能、総合ガイダンス機能を付加することがうたわれております。

さらに、対馬藩主宗家墓所等保存整備委員会では、博物館建設につきましては前向きな考え方が示され、史跡と博物館が一体として活用し、宗家文庫資料を見学者が理解できるような展示室づくりや、また金石城、清水山跡、宗家墓所の将来を見据えた一体的な整備などの意見が出されております。

以上のことから、いずれにしましても、まちづくりの方向性としては、市街地のゾーニングにより交流とにぎわいの都市機能集積ゾーンの対馬市交流センターや観光交流センターであり、歴史、文化保存ゾーンの史跡群内での博物館建設となっており、都市再生整備計画との整合性は図

られております。さらに、新市建設計画や対馬市総合計画においても整備の方向性は示されておるところであります。

また、役割と機能の分担では、定住の促進と観光産業を発展させるため、それぞれの機能を補い合い、相乗効果を発現させ、島の牽引約として対馬の活性化に貢献できることが重要と考えております。

対馬市交流センターでは、商業と公共の複合により各種講演会やコンサートなどの開催を通じて交流とにぎわいを創出させる機能、観光交流センターにおいては、おもてなしのウェルカムゲートとして情報発信により島内の名勝、旧跡へいざなうための機能とあわせて対馬のお土産等の紹介や販売、あるいは専門店へ案内する機能、また、博物館には島内住民の郷土愛を育み、訪れる人々にも対馬固有の歴史文化を創造して悠久の歴史に思いをはせ、対馬を創造させるための機能を持たせ、それぞれを充実、活用していきたいという考え方を持っております。

次に、3点目の分でございますが、先ほどおっしゃられた質問の中で、還付の本体が3,150万とおっしゃられ、加算の話がございました。そのとき2,100万という表現がありましたけど、それについては1,100万でございますので、（「ああ、あ。ごめんなさい、ごめんなさい」と呼ぶ者あり）いえいえ、訂正をここでさせていただきます。（「はいはい」と呼ぶ者あり）

この問題につきましては、昨年12月の第4回定例会において事案の経緯等を説明し、職員の処分については、処分の方向で今、内部で詰めておるところですという答弁をさせていただいております。

職員の懲戒処分については、地方公務員法それから対馬市職員の懲戒の方法及び効果に関する条例、対馬市職員の懲戒処分に関する指針の規定により、対馬市職員分限懲戒審査委員会の審査を経て、任命権者が処分を行うこととなっております。今回の事案についても、この手続きのとり平成25年2月13日付で取り扱いの決定を行っております。

内容についてですが、今回の家賃誤徴収につきましては、同様の事案が長崎県やほかの公共団体でも発生しており、錯誤をしやすい業務であったこと、また、長崎県を含めほかの団体の処分結果等を勘案し、処分なしとして、歴代の所属長及び直属の上司7名については、チェック体制等の不備ということで嚴重注意といたしました。これまでも職員の不祥事が発覚した場合は、直ちに対馬市職員分限懲戒審査委員会で処分の審査を行い、処分の内容によって、私みずからにも処分を科し、職員に対しては服務規律保持の通達や各センター等に出向き訓示を行うなど、再発防止に努めているところです。

今後におきましても、私自身が先頭に立ってさらなる規律保持の意識向上に向け積極的に職員との対話を行うとともに、各地域活性化センターや施設等に出向き、職員に対し十分に訓示等を実施し、再発防止のため、また規律保持に積極的に、そして徹底して取り組んでまいりたいとい

うふうに考えております。御理解をいただきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 冒頭のいつはら病院跡地問題、これは全くそのとおりでございますので、ぜひ実行をしていただきたいと思います。

それと、順番はちょっと逆になりますが、時間がございませんから先に、この市職員の処分についてでございますが、先ほど市長さんのお話ですと、この業務について錯誤をしやすい業務だということで嚴重注意ということですよ。この内容を私なりにちょっと調べてみたんですよ。錯誤というよりは、これは完全なるミスでございますから、その中をちょっと説明しましょうか。

これは、先ほど申しました平成10年から24年の間ですが、この家賃の改正は大きく分けて4回やっております。事件が発生した平成10年、これは平成8年に改正されて施行された分ですよ。これからが物事が始まるわけですよ。そして平成10年に既に問題があったところがございます、平成10年にです。そして、平成17年にも家賃の基礎額の改正をやっております。問題となるのは、平成19年に大きい改正をしています。家賃というのは、家賃の算定基礎額というのがございます。これに4つの係数を掛けていきます、4つの係数をです。その中の大きい係数というのが規模係数というのがございます。そして、経過年度係数です。あと利便性係数がございますが、平成10年から、間違っただけがそのまま平成24年度まで、その中には基礎係数の策定が平成10年度から24年度までずらりときております。そして、先ほど申しましたように、平成19年度には大きい改正をしております。このときに、はっきりと目を通してあげば、こういうことは事前に防げたわけですよ。それと、全てのものにおいて錯誤をしての業務があったということであれば、今回の問題とするのは、132棟の公営建物がございます。その中のわずか14棟ですよ。率にすると約10%、この中での不祥事でございますよ。これは完全なる職員そのものによるミスです。職務怠慢、これですよ。そういうものに対して嚴重注意というのは、これは甘いんじゃないかと。1,201万円の大きいお金ですよ。このお金は一体誰が払ったんですか。お金は誰が払ったんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 十分に議員の御存じのように、予算化させていただいておりますので税金で払わせていただいたということです。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 税金で払っただけで、責任の所在が全くないんですよ。嚴重注意じゃいけない。やはりそれを監督する上司がおるじゃないですか。そして、それを指示するトップの方もおるじゃないですか。1,200万円ですよ。お年寄りが年金をもらっても、年に30万、40万しかもらえないんですよ。1,200万を、要は間違っておったんだと、嚴重注

意だと、それで事が済むんですか。それにはどうなんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） そういう中、委員会において慎重なる協議をされ、他自治体との事例等も勘案されて決定をなされたというふうに感じております。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 確かに長崎県の話もございましたが、ただ、問題は内容なんですよ。ただ、申しましたように、そのミスでも、例えば共通的に間違えるミスがございます。もう本当に錯誤した場合ですよ。そういうものであればいいんですよ。長崎県の場合はそれじゃないですか。しかしこれは全体の一部、14棟だけに発生しておるんですよ。だから、ほかの自治体がこうだから市はこうだという判断にはならないと思いますよ。

それが一つと、もう一つは、この嚴重に委員会を開いてやったと言うけども、この分限懲罰審査委員会ですか、これはメンバーはどういうふうなメンバーでやっておるんですか。まさか身内だけでやっておるわけじゃないでしょうね。

○議長（作元 義文君） 副市長、高屋雅生君。

○副市長（高屋 雅生君） 私が委員長を務めております。それから総務部長、総務課長、それから職員組合の代表ということで構成をしております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） それは、全部身内ばかりじゃないですか。こういう懲罰は、身内だけじゃなくて専門家も交えてやるのが普通ですよ。そうしなければ、自分たちの仲間だから、やあやあやあ、もうこれからしたらいかんよ、それで、これで終わろうかというふうなのが嚴重注意ですよ。嚴重注意というのは、それは一番処分に当たらないんです、嚴重注意は。懲戒処分は4つしかないんですよ。戒告がございます。これが一番軽いですけどね。やはりこれだけの事件を起こすんだから、文書で注意を与えること。それは懲戒処分と言うたら戒告です。そのミスをしたんだから、それに対して戒めをする。そして、今後そのことがないように注意をする。これが、懲罰の一番軽いけども戒告ですよ。

懲罰委員会をしても懲罰はしていないんだから、再度、懲罰委員会を開いて、もう一回審査をして、そして最低でも戒告、文書で注意を与えるそのような考えはないのか質します。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この問題については、2月に委員会を開催をされて決定をしたものでございます。それについて御理解を賜りたいと思います。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 決定をしたからそういうふうな処分が出たわけですけども、この審査委員会ですか、これは裁判所じゃないわけですから、裁判所の場合は1回決まればできませんけども、一事不再理がありますけども、しかしこれはそういう制度じゃないわけでしょう。もっとほかの長崎県等いっぱい調べた結果だと思うけども、もっと詳細に、私が調べたようにどこに原因があったのか、これは単なるミスですよ。そこを戒めなければいけない。そのためには再度懲罰委員会を開いて検討をお願いをしたいと思います。

時間がございませんから、次のこの離島の運搬費の問題、これは市長が答弁のように、たしか、戦略品目これが2品目からもう一つふえて3品目になったということはお聞きしております。そして、その加工品については、言われるように流通経路がはっきりしてない面もあります。もし、例えばこの戦略品目3品目ありますが、この実行期間としては3年というのが上がっています。3年間の間に、この戦略品目、今3品目ですが変更ができるのか。例えば一年一年の変更が可能なのか。期間は3年ですけども、その辺はどうなんですか。部長かな、これは。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 単年度でそれをぐるぐる変えていいのかということについての考えはなかったもんですから、そこまでは私も交付要綱の読み込みはしておりません。それについては、また追って、読み込んでから御返答をさせていただきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） もし、この品目の変更ができることであれば、今回のガソリンの助成もございますけども、それは1年でございますから、そういうような形で品目を変えることができれば、この活性化交付金で検討をお願いをしたいと思います。もしできないときには、当初この活魚、鮮魚関係については過疎債で組んでおりました。そして、その過疎債が8,000万ぐらいきてましたけども、それを今回は取りやめて、そして活性化交付金に充てて、一部をまた過疎債でしてありますが、この今年度の予算に見えますと、過疎債が7,700万ぐらい減額しております。活魚、その魚の運搬に充てた分を引いたわけですから、それだけの減額をしておれば、こういう品物をその活性化交付金の対象から外れるならば、1年でも2年でも過疎債を発行して、で、当初の25%でもいいじゃないですか、それをすると。そして問題は先ほど市が言ったように、その流通体系とか品物が一緒に入って金額ができないという部分がございますが、そういうその支払い関係もありますけれども、きのう、おとといでしたか、この活性化交付については商工会、その他の団体に商工会も入るといってお話も部長のほうからあっておりました。ということは、商工会を通じて、クロネコヤマトならヤマトでもいいんだけど、その中で、送った金額は確定できる範囲だけでも実行はできると思うんですよ。お願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、特定の業者のお名前が出ましたが、私どももそれぞれの宅配、宅急便といえますか宅配といえますか、それをされているところとの当然ヒアリングも行いました。で、国が定めております部分との今度は整合性もとらなければいけないと思います。で、その海上運賃というのが明確に出すことは不可能だというふうな答えも返ってきております、逆に、輸送される方のほうからです。で、そういう部分という判然としない部分にという問題もございますし、今、加工品目のアイテム数とか数がまだ足りないと思います。それをどうかしてふやすために、先ほど後段で言いました個々をふやすための支援メニューを今組み立てております。逆に、ボリュームをふやしてくことを私どもは、今、対馬ではとり行うことが先なんではないかなとも感じます。

それと、過疎債の話がありました。過疎債が減っているからそれを使えばいいじゃないかというふうな、乱暴な言い方であればそういう言い方であったと思うんですが、私どもは先だって、もうここで説明をさせていただきましたが、今、新たな支援措置、さまざまな支援措置をここで打ち出しているのは、国に対して次なる手を打ってくださいねっていうことを私どもはきちんとアピールしていくこともすごく大切だという思いで、昨年からさまざまな施策に取り組んで、それが後追いでもあってもいいから、国がついてこいよっていうぐらいの気概でやっております。だから、過疎債は余っているじゃないかというふうなことは、決してそのようなお考えは持たれなくて、それはちょっと置いといていただければと思います。

○議長（作元 義文君） 14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 過疎債で対応できれば、別に国のいろんな難しい基準はクリアできるわけですから、それも検討を願いたい。

それと、時間がありませんけども、最後になりますが、この交流センターこれは博物館の建設これが28年に完成するというところで、ここに基本計画がございます。市長が答弁されたけども、博物館の関係について、全体の関係については、答弁されたのはほとんどこの中に入っておりますんで、よく私も読ませてもらいました。そして、この博物館が本当にできるんだろうかと、40億もかけて。そして、この博物館が本当にできるのか、40億かけてその負担は誰がするのか、そして、後の運営はどういう形ですかというのが、この基本計画に入っていないんです。本来ならここに入れるべきなんですけれども、入っていない。じゃ、博物館の建設は今後どうなるのか。40億ですよ。

そしてこれから、これ合併特例債なんか充てるんでしょうけど、これからは、きのうの一般質問ございましたが、尾浦から向こうのライン、浅藻のライン、200億かかるという話もされました。そして、来年度から5年間にわたって約40億程度の交付税がカットされるんですよ。そして人口がどんどん減る。お金はない。そういうところもよく吟味して、博物館の建設は挑んで

いただきたい。

そして、その観光交流センターも含めて全体的なもの、観光交流センターについては今の駐車場だけで、私は今のバスは確保できると思います。やはりああいう一等地だから、もっと大きく考えて、例えばあの1階を全部駐車場にして、そして2階、3階、4階、7階建てぐらいを、今、問題となっているホテルに市と一緒にやって、民間資金を導入してやると。俗に言うPFI方式でやる、それが一番ベターです。あんな一等地に平屋を建てても何もならない。だから最後に、この建設がどうなってるのかについてお尋ね、博物館。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。時間が過ぎました、簡単に。

○市長（財部 能成君） しっかり取り組んでおります。

○議員（14番 小宮 教義君） 以上。

○議長（作元 義文君） これで14番、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を2時5分から行います。

午後1時53分休憩

午後2時05分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

それでは最後の一般質問になります。4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 4番議員の船越洋一でございます。本日最後の質問者となります。どうぞひとつよろしく最後までおつき合いをいただきたい、このように思います。私も8年ぶりに議会の場に登壇をさせていただきました。いささか緊張いたしておりますけれども、どうぞよろしく願いをいたします。

今回は私も初めての登壇でございますので、市長に前向きな意見をちょっと御質問したいとこのように思いますので、どうぞひとつ市長の前向きな答弁をよろしく願いをいたします。

それでは、さきに通告をいたしておりました3点について、市長並びに教育長に質問をいたします。

まず1点目は、燃油高騰による漁業対策についてであります。これは、市長の考え方をお伺いしたいと思っております。この問題につきましては今回の補正予算に計上をされておりますが、市長からも、るる説明を受けました。また、昨日の一般質問で同僚議員も質問をされましたが、重複する面があるかと思っておりますが、少し違った観点から質問をしてみたいとこのように思います。

漁業経営セーフティーネット構築事業におけるA重油の補填基準80円から、漁業者の経営安定価格60円を差し引いた額の約2分の1以内とするということですが、ここで10円下がって

まいります、きのうのお話では。そうしますと次に、今度は国の対策として、80円を超えて95円までは国が2分の1、漁業者が2分の1ですから、7円50銭下がってきますね。そうすると17円50銭が下がるわけでございます。で、95円を超えた部分については、国が4分の3を補填し、4分の1を漁業者が負担をするということでございます。

しかしながらこの制度も、この制度を利用するには補助条件として、漁業経営セーフティーネットの加入者に限定をされてまいります。原則、漁協から燃油を購入したもの、ただし漁協以外からの購入の場合は漁協の確認がとれるものに限る。補助対象として、島内漁協の組合員、准組合員。補助品目といたしまして、漁業用燃油、A重油、軽油、ガソリン等です。補助対象期間は、市が平成25年8月1日から26年の3月31日まで、こういうことでございます。国が平成25年7月1日から平成26年度末までとなっております。

また、この補助金の活用を行うに当たり、燃油高騰対策として、漁業者及び漁協みずからが可能な範囲で省エネ対策に取り組むことと、こういう条件もついております。

1つ目に、経済速力での航行。漁船を通常より遅く航行し、経済的な速力で運航するよう心がける。

2番目に、船体抵抗の削減。船底やプロペラの掃除を定期的に行い、摩擦抵抗の軽減を図る。無駄な荷物等をおろし、極力、船体の軽量化に努める。

3番目に、経済運航の徹底ということで、不要な機器の電源を切る、あるいはアイドリングの実施など、不要なエネルギーは極力使わない。

4番目に、操業情報の交換ということで、無駄な漁場探索等を避けるため、水試調査船等の情報交換を密にするというようなこともございます。

これは、市のほうでは自己努力ではありますが、国は14年度末までに5%以上の省エネを行う計画を提出することが条件となっておりますが、ここまでは、きのうまでに市長の説明を受けた内容を整理をしてみました。

今回より議会も生放送で各家庭に放送されております。特に漁業者の皆さんの一番の関心事であろうと思いますので、あえて取り上げてみました。私も今回の選挙を通じて各地域に入り、お話をさせていただきましたが、特に東沿岸の美津島以北に大型イカ釣り漁船の方が多く、ある漁業者の方をちょっと例にとってみます。

その方は、船は約16トン、1日に800リッターから850リッターたくということ。その方は、今現在90円ぐらいで重油を入れていると。消費税を入れてリッター95円ぐらいになるということでした。この人がセーフティーネットに加入していれば、市の補助がリッター10円下がってきます。それと、国の補助が5円ぐらい下がってきますね。そうすると、15円下がってきます。で、セーフティーネットに入っておれば、95円以上にまた3段階が入ってき

ますけども、これは90円ですからそこまではいきませんよね。そうすると15円下がってきます。そうすると、90円から15円引きますから75円です。で、1日800リッターたいたとして、75円ですと6万円です。で、消費税が約3,000円ぐらにかかりますから6万3,000円くらい。ところが、これがセーフティーネットが使わない人が入れますと、90円ですから7万2,000円ですか。すると3,600円くらい消費税かかってきます。すると、6万3,000円と7万6,000円ですから、1万3,000円くらい、約開いてくるわけです。で、このセーフティーネットに入るとる人であれば6万3,000円、ところが、入っていない人は7万6,000円かかるんだと。そうすると1万3,000円ここで変わってきます。で、1万3,000円を75円としますと、173リッター余分に入れることができるんです、セーフティーネットに入っておれば。ですから、やはりこのセーフティーネットにどうしても入っておかないといかんということです。

しかし、このセーフティーネットに入っておかないと補助金は受けられないわけですから、どうしてもこの補助金、セーフティーネットに入っておくべき方向に持っていかなければ。ところが、きのうの説明を聞きますと、対馬はまだ5%、全国的にいくと70%くらいかということなんで、そうすると、対馬が5%くらいだったら、ほとんど使う人いませんよね、5%の加入率では。ですから、それを上げるにはどうするかということなんです。加入者をふやしていくには、どうせないか。まず、これをやらんことには、せつかく市長の今回、補助金を9,600万ですか、出して、せつかくその漁業者の方たちが燃油料が高い、だから少しでも安くしてくれという希望に応じて、その60円のところ、80円の20円あるところを10円下げてきとるわけですから、そこら辺が伝わるようにするには、どうしてもやっぱりセーフティーネットに入っていたかならんと、それが一番の問題点じゃないかなと思うわけです。

このセーフティーネットに入るようには、まず、行政サイドでできること、それは組合関係に任せるといふうじゃなしに、やはりこういう緊急事態ですから、市もやはりそこら辺には取り組んで、漁協と一体となって、やっぱり弱者のやっぱり漁協組合員さんたち、漁業をされている方たちの身になって、そこら辺はどうしても取り組んでいただかないかんのじゃないかなとこのように思います。またそこら辺をどういうふうにされるかということが1点、まず聞きます。

それから2点目の厳原市街地の活性化についてであります。

平成26年10月以降に、いづはら病院が移転をする予定だと聞いております。現在の厳原市街地の商店街は大変冷え込んでおります。もうその上、いづはら病院に通院をしていた厳原市内あるいは厳原以南の方々は、病院に行った帰りに買い物をして帰っていた人たちも、今後は美津島町に流れると。そうすると、いづはら病院にせつかく病院に来て、その帰りに買い物をして、そしてバスに乗って帰ったという人たちが、全くそこに望めんのじゃないかというような懸

念をされております。それと特に今回は、臨港道路が開通をいたします。そうすると、南のほうからすうっと巖原町を通り抜けていくと、大きな通りを。巖原南のほうの方です。そうすると、巖原近辺が全く冷え込んでいくんじゃないかというようなこともございます。それから、金曜、土曜、日曜日は、特に巖原市街地はにぎやかになるんです。これは、韓国人の方たちがやっぱりずっと旅行客が来てくれるから、あそこをずっと散策しますから、とてもにぎやかになる。しかしながら、小売店の人たちのところには全くお客さんは来ない。特定のところだけだろうと思うんです。そういうこともあります。それから、いづはら病院跡地がケアミックス型の複合型の施設が来るということですが、先ほどのお話を聞くと、市長も必ずやるというようなことを言っていましたので、それは来るんだろうと思います。それが来ても今後、商売が続けられるかどうかというような懸念もしてあるところが、たくさん巖原町の商店街の人たちはあります。

そういうことをやっぱり払拭するには、ちょうどここに今、市が計画をしてある横町線の街路の事業とか、今先ほど言われた博物館これもあるでしょう、それから、観光センターですか、交流センターこれもあるでしょう、いろんなことをやりながら、まちの中を変えていきますよということも、市長も考えてあるんだろうと思います。しかしながら、市長も旧巖原町時代には、やっぱりそのまちづくりのコーディネーターと言われるぐらいに、巖原のまちの中は精通をされていると私はそう思っております。ですから、そういうことも含めて、不安が払拭できるようなやはりまちづくりといえますか、そこら辺をしっかりと考えていってほしいということを、まず2点目にお聞きをいたします。

それから3点目ですが、教育長にお伺いをいたします。対馬独自の歴史、文化を中学校教科として取り入れられないか、教育長にお伺いをいたします。

御承知のように、対馬は古代から大陸からの影響が大きく、史跡文化財の宝庫であると思われまます。特に巖原町は、長崎県では長崎市に次いで史跡文化財の多いところでもあります。鎖国をしていた江戸時代、外国との唯一の窓口は長崎の出島であったと一般的には言われております。しかし事實は、対馬藩は韓国プサンの倭館の管理を任せられ、盛んに通航、交易を行っており、当時の出島は約4,000坪、唐人屋敷はその当時1万坪、しかしながら、対馬藩の倭館は10万坪これぐらいの広さがあつたと言われております。貿易量もはるかに出島を上回るような物が入ってきております。京都河原町三条には対馬藩の藩邸があり、西陣の絹は対馬藩が一手に引き受けていたと言われております。また、対馬藩は朝鮮通信使でも大きな役割を果たし、1607年それから1811年まで約200年の間に、将軍の代わりごとに計12回にわたり、江戸往復の案内警護をしております。対馬は外交の最前線だったと思われまます。日本の人口が今日の半分だった江戸時代も、対馬はその当時3万2,000住んでいたと言われております。このように、対馬で生まれ育った人たちでもわからないような歴史がたくさんあるわけでありまます。

私は、子供たちに歴史を勉強してもらい、こんなすばらしい歴史と文化がある島で生まれ育ってよかったと思っていただき、対馬人として、社会に出ても自信と誇りを持った社会人になってもらいたい、そういう思いがいたしております。このような思いから、教育長にきょうはお伺いをするわけですが、この教本をぜひこの機会に、郷土史家であります永留先生も健在でございますので、編さんをしていただき、教本を作成していただきたい、このような思いも持っておりますので、あわせて御答弁をいただければと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 船越議員の御質問に答えさせていただきます。

1点目の燃油の問題でございます。これについては、今議会に入りましてから何度となく制度の説明はさせていただいておりますが、今、船越議員がおっしゃられましたように、セーフティーネット加入というところがみそだなど、そして、これをどのように加入促進をしていくのかということのお話でございました。セーフティーネットというのを交付条件にさせていただいた部分についての御理解をいただいた上で、その加入促進がキーだねとおっしゃっていただいているものと思っております。

この来年以降も出漁をどんどん漁師さんたちにしてもらうためにも、どうしてもセーフティーネットに加入をしていただきたいという思いで、こちらはいっぱいあります。そのうち60円から、通常、漁師さんたちがおっしゃられる、60円という経営のラインだよとおっしゃられますが、その60円から80円という設定をしながら、その上限は10円ということでございますが、半分を助成をしてでもセーフティーネットに加入してもらいたいという、切なる思いをこちらは持っております。そして、島に活気を呈してもらいたいと思っておりますが、決して、漁協、漁連任せに、この問題をしてはいけないと思っております。

今までは、セーフティーネットっていうものが、制度として私どもを全く通らない形で、頭の上を通過していつているのが全く制度としてはありました。しかし今回、その通過しております制度というものの加入ということを経験した以上は、漁民の皆さん方に制度の加入ということに、漁連とか漁協とかが一緒になって、これには取り組んでいきたいという思いでおります。どうか御理解をいただければと思っております。

そして、2点目の厳原市街地の活性化の問題がございました。先日の波田議員の空洞化対策と相通ずるところがありますが、病院が移転することに対しての、商業者を中心としての、やはりその不安というものをどのように払拭していくかということ、そのためには、次なる施策というものをきちんと打ち出していないといけないと思っております。

また、厳原地区の方向性とかいうものを明確にしていかなければいけないと思っておりますが、先ほどの14番の小宮議員の質問にも答えさせていただきましたが、博物館並びに観光交流セン

ター、それから今もうできて動いておりますがティアラの問題、そして3つの史跡の問題、さらに厳原全体の町並みの問題ということを、やはりきちんと私どもは視野に入れて、この組み立てというのはしていきたいと思っております。

また、以前から、浜のほうからずっと街路整備というのを取り組んでまいりました。県と一体となってやってまいりましたが、現段階において八幡様まで、港のほうから全体終わっているというわけではありませんけども、ずっとやっております。さらに八幡様から、宮谷といいますか、日吉といいますか、谷出橋のあの近辺までの計画もできて、それを街路をやっていくということに進んでおるところでございます。

これらのさまざまな事業というものの動きということを十分にキャッチをしていただきながら、島、街がどのように変わっていくかということに対して、商業者の方たちはアンテナを張っていただきたいと思っております。常に環境というのが変化をしていく中で、その環境変化にどう対応していくかというのが最も得意とされるのが商業者の方だと思っております。そういう意味において、最も得意なその分野を遺憾なく発揮していただきたいと思っておりますし、やっている方向性というのは、私どもも皆さんにきちんとお伝えしながらやっていきたいと思っております。

対馬の牽引は、先ほど申しましたけども、厳原地区が、やはり集積の状況とか考えますと牽引していくものだと思っておりますし、歴史的なポテンシャルということを考えれば、やはりそれは膨大なものがあると思っております。

余談でございますけども、5月、1カ月間こちらに、田淵でしたか大手橋でしたかに住み込んだ中央の記者さんが、1カ月間住み込んで、今、記事を今月から出すような予定で取り組んでいただいておりますけども、帰られる際に私のところにお見えになりました。そして、驚いたという言葉が今のようなことです。やはり東京のほうでわからないすごい歴史的な輻輳した対馬の部分ですごく感じた。やはりこれは日本にとって大切な島だということを、きちんと自分たちマスコミも出したいと思っていると。で、こちらはそのことの方向性というのを再確認して、打ち出してほしいというふうなお話がありました。で、まさに私どもが日ごろから思っている方向性と全く一緒だなと思っております。

また、観光交流センターの件でございますけども、これにつきましては以前からずっと申し上げておりますように、南部の方たちがそこで乗り降りができるようなバスターミナル機能というものを持たせたいと当然思っております。そこで、人が滞留していく形をとっていききたい。以前、若干北側でしたけども、バス会社がございましたけども、私の子供のときの、やはりあそこでの人が滞留していく、そこを基点として動いていくということをイメージとしてずっと持っているものですから、あの地域という、あの場所というのは、すごく対馬厳原地域にとっては大切な南

北の結節点でもあります。そういう意味の部分というのを考えながら組み立てをしていきたいと思っておりますし、あの部分からさらに横町通りを通じて、今後は西東の川端通りをどのように連動させていくかということも、常日ごろ職員とも話しておりますし、まちづくりのワークショップ等も、そういう考え方で組み立てをずっとこちらは望んでおります。で、市民の人たちの意見を聞きながら、合意形成を今計っている最中でございます。御理解いただければと思います。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 船越議員の御質問にお答えをいたします。対馬独自の歴史、文化を中学校教科として取り入れられないかということでございます。

対馬におけるすばらしい伝統や、歴史的、地理的な文化を中学生にしっかり触れさせ、学習させることで、郷土を愛する思いを深めたいと、生活している地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養いたいと考えているところでございます。

お尋ねの各教科における学習内容、教科としてできないかということなんですが、各教科における学習内容時間が、国が定める学習指導要領により決められており、対馬の歴史文化について教科として取り入れることは困難でございますが、現在学習している教科の中で、折に触れながら、対馬についての理解を深めているところでございます。

主に対馬についての学習を深める教科、領域は、教科としては社会科、それから領域として総合的な学習の時間です。

社会科におきましては、地理的分野において1年生の単元の中で年間6時間程度、地域に関する学習を取り入れております。これは身近な地域における諸事象を取り上げ、観察調査を行い、生活している土地への理解と関心を高めること、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養うことが目的であります。歴史的分野におきましては対馬を中心に据えた歴史の流れを学習することはありませんが、その時代時代の流れの中で対馬との関連を盛り込みながら、対馬の歴史について学習しているところでございます。

また、総合的な学習の時間におきましては、各学校独自での取り組みになりますが、多くの中学校が地域をテーマに掲げております。具体的に申しますと、市内13校のうちの9校が、地域の伝統文化、それから歴史、生物や、生活について課題を掲げ、調査や体験活動を実践しております。その成果を各教科で培った技能を駆使しながらまとめ、発表することで、総合的な力を育成しながら対馬や地域について探求をしております。学習時間も、1年生が年間50時間、2年生が70時間、3年生も70時間となっております。対馬の伝統文化を学習体験する中心となっている領域であります。

主にこの2つを中心として、各教科におきましても折に触れながら対馬を題材として学習することで、教科の目標達成を図るとともに、対馬についての理解や関心を高め、郷土愛を培ってい

るところであります。対馬市教育委員会といたしましても、基礎学力向上推進事業において、身近な地域を題材にした社会科教材を作成し、各学校での活用を図っているところです。今後も社会化や総合的な学習の時間を中心として、各教科においても対馬との関連をさらに深めながら学習を進め、対馬のすばらしい伝統文化を理解し、関心を高め、地域社会の発展に尽くす生徒の育成に努力したいと考えております。

それからもう一つ、郷土の大先輩であります郷土史家の方の御指導を受けながら考えておりますのは、これは小学校ですけども、三、四年生に社会科の副読本を提供しております。今年度と来年度、その見直しを計画しておりますので、その折には大先輩の御指導もいろいろ受けながら、皆さんの御指導を受けながら、よりよいものをつくっていききたいというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） まず、教育長のほうにお伺いをいたします。

教育長、言われるのはわかるんです。学校教育ですからね。それは、そのような方針でやっておられるから、それはわかる。ですが、私が言っているのは、要はこの対馬に昔からずっと流れてきているこの歴史というのを子供たちに知ってほしいというのが根底にあるんです。今、教育長の言われておるのはちょっと相反するところがある。対馬の歴史文化をという同じ表現にはなりますが、要は、例えば宗家がどこでどういうふうなことをして、例えば朝鮮出兵に豊臣秀吉が出ました、もうそういうことから含めて、そういうふうな歴史を子供たちに、対馬を経由したとか、あるいは対馬独自のそういう歴史というのを子供たちに勉強させてほしいというのが、私の本音なんです。そういう副読本といいますか教本といいますか、そういうのを郷土史家の先生に1回つくっていただければ、それがずっと残っていくんですよ。それは変わることありませんから、歴史ですからね。だから、そういうことも含めて何とかできませんかということなんです。

で、実はこれ一つ参考に言いますが、私が学校を出て都会に出ました。そうすると、職場に入って、あんたどこから来たと言われるんです。で、長崎ですと。対馬はまだテレビにも載ってないんですよ。対馬というのが載ってない。で、対馬て言いきらん。対馬というのはどこにあるのかというて、それは日本かというて言われるような状況でしたよ。やはりそういうぐらいの、やはりその対馬というものの知名度がなかった。今はありますよ。天気予報にもちゃんと載っていますから今はありますが、しかし、なかなかそう対馬と言うてもわかってくれる人は少ないと思いますよ。で、例えばここを卒業して学校を出て、例えば都会の大学に行きましたと、子供たちが。そのときに、あんたどこかというて、長崎か、長崎で書いてあるけん長崎か。長崎です。長崎どこかて言われたら、いや長崎市内ですぐらいしか言えんと思うんですよ。私がそういう経験があるから。やはり、自分、俺は対馬人やて誇りを持つぐらいの、誇りと自信を持って、俺は対

馬やって何を言いよるかかって言えるぐらいのことが言えるぐらいの、子供たちにそういう歴史を、自信が持てる歴史を、そういう勉強をさせとってくださいというのが私の言うところなんですよ。

そこら辺をもう少し理解をしていただいて、先ほど言いましたが、永留先生の件もしかり、やっぱりそういう先生が今健在でおられるうちに、その人がおらなくなったときには歴史を語る人がなかなか少ないんですよ。だから、そういう人がおるときにしっかりそういう本をつくっていただいておって、そして、それを後世に残していく、子供たちに残していく、それぐらいの配慮が私はあるといいと。

で、教育長さっき言われますように、対馬ならではの教育というなお話もありました。これ、確かにそうだと思いますよ。しかし、そこに一步踏み込んで、そういうことを考えていただけないでしょうかというのが私の質問の内容ですから、よろしく答弁をお願いしたいと思います。

それと市長、この燃油、この燃油はなかなかこれ、今から円安になりますね。円安になりますと、まだまだこれを上がってきますよ。で、アベノミクスも来年ぐらいから少しは景気が変わってくるのかな、対馬に来るのはちょっとおくれますから。なかなかそこら辺までいかんのかなと思います。やはりこの燃油対策というのは、漁業者というのは対馬の基幹産業ですから、これはどうしても手厚くしてやらんといかん。これが衰退すると、対馬は沈没しますよ。それをするには、やはり今、国境離島新法ですか、これ私もちょっと勉強してみましたよ。

まだ、きょうで国会も終わるわけですから、次、国会があるという秋の国会ですか、で、そこに入るかな、入らんかなというような懸念も持っております。そうしますと、私もちょっと資料をとりましたが、今、自民党内閣部会、それから領土に関する特命委員会、離島振興特別委員会の合同会議があつてますよ。市長、御存じだと思うんですが、その中で、やっぱり山谷先生とか、額賀先生とか、金子先生とか、委員長さんがおられますが、その人たちが一緒になってこの離島新法というのを、今、議論を自民党の中でされておる状況です。

なかなかこれ、この国会に上げてくるときにも、まだまだ次の国会まで行くの大変かなと思ったりもしますが、当初、去年ですか、参議院に自民党が法案を出されたときには4島でしたよね。礼文、利尻、対馬、与那国、4つでした。最初は4つでしたよ。それと今度は、それから、奥尻、佐渡、隠岐島、見島、壱岐、五島列島、が入ってきておるんですよ。で、この4島はA群、あとの6つはB群、例えばですね。そういうふうな仕分け方になってくるかなと思うんですが、やはり我々は、対馬というのは49.5キロしか離れていない。ところが、与那国というのはまだ離れていますね。礼文も利尻もまだロシアから離れていますよ。それと、国境に一番近い、面しとるところは対馬なんです。

市長、よく考えてください。鎌倉時代に元寇の役のときには、鎌倉幕府は対馬も壱岐も捨てた

んですよ。博多で迎え撃ったんですよ。それぐらいにこの島というのは危険にさらされるんですよ。ですから、特に49.5キロしかないわけですから、その国境離島新法の中にこれを取り入れてもろうて、何としてでもこの漁業対策、燃油対策というのはこれは市長、命かけてでもやってもらわんといかんと思います。

それで、この国境離島の新法の中の財政上の特別措置というのがあるんです。で、そこをみますと、港湾、漁港、道路、空港、水路整備に係る国庫負担金のかさ上げ、これは沖縄並みと書いてあるんです、沖縄並み。それから、港湾、道路、空港維持管理の負担軽減について配慮する、地方が行う港湾、漁港、道路、空港整備を国が代行して行う制度の創設、防衛施設周辺の民生安定施設の整備に係る国庫補助のかさ上げ、これも沖縄並み。で、こういうふうはこの新法をつくって、そこの中に入れていただくと、いろんな利点が離島新法にかさ上げた部分がありますよね、市長よく御存じだと思いますが。だからそこら辺をフル活用しても、この対馬のこの漁業者の燃油高騰問題については、市も補助金を次から次へ出すわけいきませんよね。今回出しておるの、再度上げていますよね。だからそういうふうな、確かにそれは、市長は緊急で起債を組んででもやらないかんということでやったんだと思いますが、いつもかつもこれやれませんよ。ですから、やっぱり安定的に漁業者の人たちが漁をしていただくには、やっぱりこういうことからしっかりと取り組んでいかんと、これ解決するもんじゃないんですよ。

それは確かに、この前から言われています尾浦から安神之の道路、これもやらないかんでしょう。今言われるような博物館もやらないかんでしょう。やるのはたくさんあると思うんですよ。しかし、対馬はやはり漁業が栄えんとだめですよ。観光もそれは韓国からも来てもらわんといけません。しかし、国内からできるだけ引っ張るような観光の施策も考えていただかんと、これはなかなか対馬の売り上げは上がってきませんね。だからそういうことも含めて、やはり厳原のまちの市街地、これは首都機能が機能できるようなまちづくりを今考えてくれておると思うんですよ。ですから、それはそれで一生懸命やってください。しかし、それを周知徹底をやはり地域の皆さん、まちの人たちにもよくよくやっぱりわかるようなことの広報も、やっぱり広報しっかりとやらんと不安がりますよ。あれもこっち行った、これもこっち行った、私たちはどうなっちゃうかというような感じになりますんで、やっぱりそこら辺の広報もしっかりしていただきたいと思います。そういうことでどうぞ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） そこで答弁が来るとは思いませんで驚きましたが、本当、いろんなことをやっていかないと、今、島が沈没しそうだという思いもどこかにあって、手は打とうとしております。しかし今、船越議員がおっしゃられるように、これをいつまででもやっていけるのかという、それはやっていけないと思っております。

14番議員が先ほどおっしゃられましたように、26年度から交付税も残減していきます。それに対応するための基金も積みはしておりますけれども、しかし皆さんの、市民の困った状況という新たなことがいっぱい出てきます。それに対応するために、じゃあ全てできるかという、それはなかなかそういうわけには行かないと。

まさに今おっしゃられたように、国境離島特別措置法というものを私自身も5年前のたしか4月の特別委員会に出していただいて、法律の必要性というものをそこで話をさせていただきました。で、皆さんと一緒にずっと動いてきておるわけですが、今、今回通常国会において、無人の国境離島特別措置法がどのような最終的な扱いになったか私は聞いておりませんが、今言われた領土特命委員会、内閣委員会、離島振興委員会の3委員会においてこの問題については論議をさせていただいておりますし、当初は一領土特命委員会だけでやっておられましたけれども、それがやると離島振興の委員会、内閣委員会も合同で会議をさせていただく段階になって、大体の素案までは、無人に関しましては素案までは固まったというふうな情報も聞いております。で、次は、有人離島の国境離島をどうしていくかというお話にさせていただかなくてはいけないと思っています。

先ほど、A群、B群のお話がありました。4島が10島になっておるぞという話であるわけですが、で、私どもはA、Bの区分は、あくまであれは新聞上のA、Bの区分でありまして、あの法律をつくられた国会議員の方とお話をさせていただきましたら、国境離島の定義づけの分け方として分けただけであって、Aが先だBが後だとかいう、決してそういうことはない。で、国境離島と考えられるところをどこまで拾い込んでいくかというのはこれからの論議だと思いますが、当然国境に最も近いといえますか、隣国に最も近い対馬が第一義的に取り扱われるのは当然だと思っておりますし、その動きというのを、最も先に動き出した私どもでございますので、どうかそれが成就するように議会と一緒に動きたいと思っておりますし、先日も、議会が始まる前でございますけれども、議長と別件で東京のほうに出向いた際も、実は昨年9月に参議院のほうに法案を出された方と、議長、私、一緒に2人で会って、その状況とか、お願いもさせていただいたところであります。

今、島の皆さんのやる気というものをさらに引き出すためにも、そのような法律というのが必要だというふうに思っておりますので、法律制定に向かって、私どもも外からいっぱい動きたいと思っております。御協力をよろしく願いいたします。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 先ほどの件でございますが、船越議員さんと私も思いは全く同じでございます。

もう時間がないのであまり多くは話せませんが、私、ことしの4月9日に佐賀県の鳥栖

市に賀島祭に行かせてもらいました。そのときに、私も不勉強でわからなかったわけですが、賀島恕軒という巖原出身の方が田代のほうに派遣されて、そこで10年余りその土地のために治水とか木を植えたりとか、そういうことで困窮してある方たちを救ったということで、いまだにその顕彰の祭典が行われております。その席に私も座らせてもらったときに、本当に鳥肌が立つ思いをいたしました。こういうことをやはり私たちが子供たちにしっかりと教えて、対馬に対して自信と誇りを持って大人になって活躍していけるように、思いを持っております。言われたこともしっかりとまた、これからも努力をしていきたいと考えております。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 残り時間4分になりましたけども、市長、先ほどの国境離島、これは言いだしっぺですから、やっぱりプッシュプッシュでとにかく強く当たってくださいよ。そうせんと、やはり政治家を取り囲むのは上手な方たちがたくさんいますんで、そこら辺に負けんようにしっかりとやってください。そして、——いやいや、まあまあいいですからね（笑声）だからそこら辺も含めてやっぱり真剣に取り組んで、先ほど言いましたように、対馬の漁業者をしっかりと任しとけというぐらいの気持ちで、これからもしっかりと、このもう予算はないわけですから、起債を上げるわけにはいきませんのでね、いつまでも。ですから、そこら辺をしっかりと見きわめていただいて、国境離島新法が来年の3月までには通るか通らんかというのもちよっと見えませんが、しかしそれに向けて、とにかく秋にでも通るようにしっかりと頑張ってください。そこら辺の予算が獲得できるように、ひとつしっかりと頑張ってください。よろしくお願ひします。

それから、教育長、思いは同じと言われました。ありがとうございます。そういう気持ちの教育長で、私もよかったと思います。しかし、気持ちは一緒でも物事をしっかりと進めてもらわんことには、気持ちは一緒でもだめなんですよ。気持ちは一緒はわかります。だからそこら辺を、きょう私が言いましたことをじっくり、よくよくまた考えていただいて、先ほども言いましたように永留先生も御高齢ですから、そうそういつまでもというわけにもいきませんよ。だから、そういうことも含めて何とかそれがなるような方向づけをひとつ考えてみてください。

市長、今、私、教育長とやり取りしていますが、市長の御意見をちよっと聞きましょうかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 対馬の歴史というもの、そして自分が誇りに思える郷土っていう形をつくっていくっていうのは、今おっしゃられるような部分でアプローチの仕方も私はあると思っています。さらに、子供のときからの問題も、当然それはあるからだと思いますし、もう一つあるのは、この行政というか市政の全般的な話から行きますと、やはり外に出て行っても、対馬っていうことを誇りに思えるような、私どもも市政運営をやっつかないといけんのだろうというふうに思って、先ほどのやり取りを聞きながら、自分自身の市政運営のことをオーバーラップして

感じておりました。しっかり取り組まさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ラスト1分です。宗義智は、李朝、その韓国と朝鮮と昔やる時には、やっぱり自分の部下を、豊臣秀吉と出兵のときに途絶えましたよね。あのときは、自分の部下をやって殺されてでも、それでやっぱり交渉していきながら、やっぱりやっていったという経緯もありますよ。やはり一つ物を成就するには大変でしょうけど、上に立つ人間というのは、やっぱりそれはいつも降りかかっていることですから、市長、対馬人として誇りを持って、東京に行っても、俺は対馬人じゃ何かあるかと言うぐらいの（笑声）気持ちで、言わんでもいいですが、（笑声）まあまあ。それぐらいの気持ちでやっぱり誇りを持って、子供たちにそう言うのであれば、やっぱり大人がやっぱりそれぐらいの気持ちを持っておかんと、子供たちには接せられんと私はそう思っていますんで、ひとつそういうことも含めてよろしくどうぞお願いしておきます。

ありがとうございました。終わります。

○議長（作元 義文君） これで4番、船越洋一君の質問が終わりました。

○議長（作元 義文君） 以上で、今回予定の市政一般質問は全て終わりました。本日はこれで散会いたします。

午後2時56分散会